

東京外国語大学

# 国際社会学部の歩き方

2025



東京外国語大学

# 国際社会学部の歩き方

2025 年度入学生版

## 目 次

|    |                 |    |
|----|-----------------|----|
| 1. | 国際社会学部へようこそ！    | 2  |
| 2. | 国際社会学部の4年間      | 4  |
| 3. | 国際社会学部で社会／世界を学ぶ | 10 |
| 4. | 学生によるゼミ案内       | 15 |
| 5. | 学部賞受賞者紹介        | 21 |
| 6. | 卒業後の進路          | 22 |
| 7. | 学びのサポート案内       | 24 |
| 8. | 国際社会学部教員一覧      | 29 |
| 9. | よくある質問コーナー      | 31 |

『国際社会学部の歩き方』は、東京外国語大学国際社会学部の新入生を主な対象として、授業の履修の仕方や大学での学び方を知るためのガイドブックとして作成しています。

# 1. 国際社会学部へようこそ！

## 学部長メッセージ（千葉敏之）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ東京外国語大学での大学生活がスタートします。期待に胸を膨らませる皆さんも、まる一日をかけての履修ガイダンスを終える頃には、新しい生活、小・中・高までとはまるで違う〈大学生活〉自体に戸惑いを覚えているかもしれません。『履修案内』を読んでも、壇上から諸先生の説明を聞いても、なかなか自分の生活と結びつかない。そんな皆さんにもっと確かな〈道順〉を提供するのが、この小冊子、通称『歩き方』です。『履修案内』にある堅めの説明が、学生・教員の〈生きた声 viva voce〉を助け船に、うまく消化できるよう、噛み砕いて解説されています。



大学を無事卒業するには125単位が必要なことはわかる。講義は1学期15回（AL2回含めて！）で2単位、でもドイツ語やアラビア語の授業は1単位。これを毎年着実に積み上げていけば、単位は集まる…。大学での勉強、いや<sup>ガクモン</sup>学問は自由なのだから、何を取っても良いはず。でも、学年ごとに絶対に取らなくては行けない必修科目がたくさんある。専攻語の授業はクラスも時限も決まっています、変えられない。反対に、導入科目や世界教養科目は比較的自由に選択できる。じゃあ、いったい何を選択したら良いだろう？

ここまで考えが進んだら、『歩き方』の出番です。将来何になりたいか、夢がはっきりしている人もそうでない人も、まずは各ページにある本学卒業生・在学生の生の声に耳を傾けてみましょう。そのうえで、「コース別履修モデル」へ。長期留学を考えている人、短期留学をしながら4年間で卒業しようと考えている人、実際に先輩たちが辿った道であるからこそ、リアルです。イメージが固まってきたら、最初のページに立ち返って、ページの順に読み進めてください（『キーワード検索のすすめ』パンフレット）。

全く別のアプローチもありえます。いま何が勉強したいか、必修科目や必要な単位の取得のことは考慮しつつも、いま学びたいことを純粋に学びたい。そんな人は、本学部の先生たちの専門について調べてみましょう（国際社会学部 HP にある「専任教員プロフィール」「学問分野」<sup>ひし</sup>ファイルを御覧ください）。高校と違い、大学の教員はみな研究者です。研究講義棟には世界を様々な手法で研究する、実に多様な専門家の研究室が<sup>しつら</sup>犇めいています。扉を開けば（アポは取ってね）、部屋の<sup>しつら</sup>設えや書棚に並ぶ書籍の背表紙に、研究者の人となりを感じることができそうです。そして、世界を読み解き、未来を提言しうる学問分野がどれだけあるのか、その圧巻の全体像に迫ることが大切です。既製品<sup>レディー・メイド</sup>ではなく、自分で考えてオーダーメイドできる学びの豊かさこそが本学の個性。そのためにはまず、研究者たる教員の専門や人柄をよ〜く知ることが大切です。そのうちの一人が、皆さんの運命を左右する（？）ゼミの指導教員になるのですから（☞「学生によるゼミ案内」）。

東京外国語大学には、他の大学にはない唯一無二の個性があります。本学150年の歴史のなかで<sup>おびただ</sup>夥しい数の学生と教職員が踏み締めてきた伝統です。それは、外語祭での料理店や語劇、サークル活動や部活動、こうした学生どうしの間柄が親密であること。そして、学生どうしだけでなく、1年次から卒業まで続く教員と学生の距離も、その息遣いが伝わるほどに近いことです。一方で本学は、一匹狼として孤高に、学問、文学、課外活動に没頭する学生が自分らしく過ごせる場でもあります。〈大学 universitas〉が、その誕生いらい、自由な空間であるからです。

楽しい学生生活においても、物事がうまくいかない時はあります。友達にも相談できない辛さを感じたときは、『相談窓口ガイド』パンフレットを見てください。学生どうしでは解決できない問題も、相談員の方々や先生方に相談したら、うまくいくかもしれません。必要な時は立ち止まって、人の助けを借りることも大切です。そこから新しい絆が生まれて、景色が一変することもあるからです。

今年入学された皆さんの多くは、中学時代にコロナ禍を経験された世代でしょう。私たちのTUFでも大学在学中にコロナ禍を迎えた学生たちの多くが、複雑な想いを胸に、けれど晴れやかに、実社会へと巣立っていきました。外語祭では世界の食卓<sup>た</sup>が取り囲む熱いライブステージと、プロメテウス・ホールでの語劇の熱演が観衆の心をとらえ、海外留学では情熱<sup>た</sup>を胸に湛えた学生たちが続々と世界各地へ飛び立っています。大学のキャンパスとは本来、生身の人間と人間が行き交う公共空間<sup>フォーラム</sup>。巨大な円から直線が四方に伸びる府中キャンパスの平面図は、船舶に喩えるなら、さながら世界に向けて開かれた国際貿易港のよう。研究講義棟は、船を建造・保守する<sup>ドック</sup>船渠です。この場所に、数え切れない先輩たちが、言葉と知と感情をぶつけあいながら、青春の記憶を残してきました。皆さんもそれぞれの希望を胸に、先人たちの肉声<sup>こだま</sup>が伝わるこの府中の港から広がる海原に、自分だけの航跡を印して行ってください。

# 国際社会学部の見取り図～大学での学びから社会へ、そして世界へ～

所属する業界  
企業・組織・職種

国際社会と世界諸地域をつなぐ仕事  
国際機関／政府組織／民間企業／マスメディア／研究機関・大学／国連／外務省・大使館／製造／金融保険／アパレル／建築／エネルギー／広告／テレビ局／新聞社／国内外の大学院／芸術アート／IT 情報通信／コンサルティング／国家公務員／地方公務員／教員

取り組む仕事

開発・技術協力支援／安全保障／政策立案／人材育成・教育支援／通商貿易／文化交流・文化遺産保護／環境保全／サステナビリティ／学術交流／人的交流／組織間連携／外交／製品開発／エネルギー政策／食文化広報／コミュニティ

身につける能力  
状況判断と調整力



高度な専門性  
ゼミ・専門講義

| 長期留学（協定校・一般大学への長期留学：語学だけでなく、専門を磨き、社会を学ぶ） |                                                  |                                                          |                                                |                                                           |                                          |                                                           |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 55名の専門の多様なゼミと指導教員（3つのコース）                |                                                  |                                                          |                                                |                                                           |                                          |                                                           |
| <b>経済学系</b><br>経済学<br>開発経済学<br>経済思想      | <b>政治学系</b><br>国際政治学<br>国際法<br>安全保障研究<br>政治哲学・原論 | <b>歴史学系</b><br>歴史学・感情史<br>記憶／歴史認識論<br>社会経済史学<br>建築史・美術史  | <b>地域研究系</b><br>地域研究<br>（13地域＋α）<br>地理情報システム学  | <b>ジェンダー・社会学系</b><br>国際社会学<br>レイシズム・スタディーズ<br>グローバルスタディーズ | <b>教育学系</b><br>比較国際教育学<br>教育社会学<br>★教職科目 |                                                           |
| 専門授業の柱となる42のキーワード                        |                                                  |                                                          |                                                |                                                           |                                          |                                                           |
| 宗教<br>信頼<br>信用<br>労働<br>産業<br>貿易         | 貧困<br>開発<br>法<br>制度                              | 社会運動<br>アクティヴィズム<br>民主主義<br>紛争解決<br>平和構築<br>国際機構<br>地域機構 | 歴史<br>国家<br>ナショナリズム<br>グローバリゼーション<br>帝国<br>植民地 | 思想<br>人権<br>人道<br>権力<br>暴力<br>環境                          | 人種<br>レイシズム<br>エスニシティ<br>都市<br>記憶        | 経済<br>資本主義<br>社会主義<br>ジェンダー<br>セクシュアリティ<br>移民<br>難民<br>教育 |

確かな現地理解  
地域基礎

世界を覆う13の地域  
世界諸地域についての理解（地域基礎・スタディツアー・ショートビジットなど）  
1. 北西ヨーロッパ・北アメリカ 2. 中央ヨーロッパ 3. 西南ヨーロッパ 4. イベリア・ラテンアメリカ  
5. ロシア 6. 中央アジア 7. 東アジア 8. 東南アジア第1（島嶼部） 9. 東南アジア第2（大陸部）  
10. 南アジア 11. 中東 12. アフリカ 13. オセアニア

現場対話能力  
言語と運用法

国際共通語（GLIP 英語科目）と多様性を広げる教養外国語  
27の専攻言語（土台）＋世界の諸言語  
1. 英語 2. ドイツ語 3. ポーランド語 4. チェコ語 5. フランス語 6. イタリア語 7. スペイン語  
8. ポルトガル語 9. ロシア語 10. ロシア語およびウズベク語 11. モンゴル語 12. 中国語 13. 朝鮮語  
14. インドネシア語 15. マレーシア語 16. フィリピン語 17. タイ語 18. ラオス語 19. ベトナム語  
20. カンボジア語 21. ビルマ語 22. ウルドゥー語 23. ヒンディー語 24. ベンガル語 25. アラビア語  
26. ペルシア語 27. トルコ語

## 2. 国際社会学部の 4 年間

### 国際社会学部の 13 の地域／27 の専攻言語

皆さんは入学とともに専攻する地域と言語をもちます。自らの地域と言語を大切に、大学での学びを組み立てて下さい。



### 入学から卒業まで

皆さんの履修する授業は「世界教養プログラム」と「専修プログラム」に分けられます。世界教養プログラムは言語文化学部、国際日本学部と共通のカリキュラムです。専修プログラムは国際社会学部独自の授業で構成されています。ここでは、履修の大まかな流れをつかむための枠組みだけを示しますので、授業の取り方は『履修案内』をよく読んでください。

卒業までには定められた単位を修得する必要がある、これを**卒業所要単位**といいます。3 年次への進級のためには 2 年次の終わりまでに一定の単位を修得する必要がある、これを**進級要件**といいます。

卒業所要単位と進級要件は以下の表の通りです。言語科目の単位は専攻地域によって異なるので、『履修案内』で確認をしてください。専修プログラムの「導入科目」「概論科目」「専門科目」は所属するコースの授業の単位を一定数以上含むことが必要になります。

**卒業所要単位の内訳** 注：この卒業所要単位の内訳は 2019 年度以降の入学生に適用されるものです。

|            |      |            | 進級要件<br>単位数 | 卒業所要<br>単位数 |                                                                                    |
|------------|------|------------|-------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 世界教養プログラム  | 言語科目 | 専攻言語       | 15 ※        | 36 以上※      | ※言語科目の履修の仕方は地域/ 言語ごとに異なります。『履修案内』 や所属する専攻言語が定める「履修の注意」をよく確認し、担当教員の指示にしたがって履修してください |
|            |      | 諸地域言語      |             |             |                                                                                    |
|            |      | 教養外国語      |             |             |                                                                                    |
|            |      | GLIP 英語科目  | -           |             |                                                                                    |
|            | 地域科目 | 地域基礎       | 6           | 6 以上        | ※所属する専攻地域が定める「履修の注意」をよく確認し、担当教員の指示に従って履修してください                                     |
|            | 基礎科目 | 基礎リテラシー    | 1           | 1           | 基礎科目は 1 年生のうちに履修してください                                                             |
|            |      | 基礎演習       | 2           | 2           |                                                                                    |
|            | 教養科目 | 教養科目       | -           | 16 以上       |                                                                                    |
| 専修プログラム    | 導入科目 | 導入科目       | 8           | 8 以上        | 所属したコースから 2 単位以上                                                                   |
|            | 概論科目 | 概論科目       | -           | 6 以上        | 所属したコースから 4 単位以上                                                                   |
|            | 専門科目 | 講義科目（専門演習） | -           | 24 以上       | 所属したコースから 12 単位以上                                                                  |
|            |      | 本ゼミ        | -           | 4           | ※指導教員の専門演習が本ゼミ                                                                     |
|            |      | 卒業研究演習     | -           | 4           |                                                                                    |
| 卒業研究       |      |            | -           | 8           |                                                                                    |
| 関連科目       |      |            | -           | 0 以上        | 他学部・他大学の授業は関連科目の単位になります                                                            |
| 卒業所要単位数 合計 |      |            |             | 125 以上      |                                                                                    |

## 4 年間の履修の流れ



## 履修に当たっての注意点

## ■ 1、2年次の履修計画を立てるときのポイント

1. 時間割を詰め込みすぎない！（大学の授業は予習・復習・課題がもれなくついてくる）
2. 進級に関わる必修科目は特に注意（専攻言語、地域基礎、基礎リテ、基礎演習は基本）
3. 専攻言語と地域基礎は担当教員の指示に従い、「履修の注意」※の通りに履修しましょう
4. 導入科目はバランスよく学んでください（希望のコース・ゼミに進めるとは限らない）
5. 教養外国語は2年生から履修がおすすめ（新しい外国語を複数学ぶのはたいへんです）

## ■無事卒業するために忘れないで欲しいポイント

1. 言語科目の卒業所要単位は **36 単位以上** です（語学は1コマ1単位。けっこう多いです）
2. 必修の GLIP 英語／教養外国語は取り方にルールがあります（本当に要注意）
3. 必修の言語以外に一定数の選択必修の語学の単位を修得する必要があります
4. 導入・概論・専門科目は所属コースの科目から一定数の単位を修得する必要があります
5. 自分の入学年度の『履修案内』※にしたがって履修してください（年度によって異なる場合あり）
6. 所要の 125 単位ピッタリで卒業しようとししないでください！（取りこぼすと挽回不能です）

※『履修案内』、「履修の注意」は大学 HP→学部・大学院/教育  
→国際社会学部→学部生活ナビ～履修・授業・相談窓口



**Attention!**

各授業の成績評価にかかわる「試験」は、授業内の小テスト、レポートや期末試験などさまざまな方法で行われます。そのいずれにおいても、不正行為はしてはいけません。成績評価については各授業ごとにルールがあります。教員の指示をよく聞いて試験に臨みましょう。不正行為が確認された場合、同一学期あるいはその年度に受講した全ての科目の成績が不合格になることもあります。

## コースとゼミの選択【2年次 春学期】

2年次の春学期終了時には、皆さんの希望にもとづいてコースとゼミ（注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます）が決まります。2年生の春学期の早い時点から、コースとゼミを選ぶための説明会や意向調査が始まります。コースは何を専門的に学びたいかによって選択します。選択するコース・ゼミについては1年次から考え始めるようにしましょう。とくに導入科目、教養科目の履修に際しては、2年次以上で専門的に学びたいことを意識して、関連の深い授業を履修するように心がけてください。

## 国際社会学部の3コース

※それぞれのコースに所属している教員の専門分野はこの冊子の29ページ以降に掲載してあります。

※国際社会学部 HP にある「専任教員プロフィール」「学問分野」ファイルも御覧ください。

■**地域社会研究コース** 対象とする地域の時間軸（歴史）と空間軸（地図）を柔軟な視点で捉える方法を身につけ、地域に関わりながらそのリアルを学ぶコースです。

■**現代世界論コース** 哲学、政治学、ジェンダー論、レイシズム・スタディーズなどのオーソドックスかつ最先端の研究に触れながら、現代世界の諸問題を批判的に考察する方法を学ぶコースです。

■**国際関係コース** 社会科学の方法論を体系的に学び、法学、政治学、経済学、国際協力論などの学問分野を専門的に学修し、国際社会を生き抜く知的技術を身につけるコースです。

## 国際社会学部の導入科目（2025年度）

1年生はまず、専修プログラムでは導入科目の履修を計画する必要があります。2025年度に開講する各コースの導入科目を以下の表に示しました。授業内容はシラバスで確認をすることができます。

※コースを色分けしてあります（**地域社会研究コース** **現代世界論コース** **国際関係論コース**）。

※時間割や授業形態が変更になる可能性もありますので、シラバスや学務情報システムをこまめにチェックしてください。

### 春学期・夏学期開講

| 科目名       | 授業題目                                                                  | 担当者     | 学期  | 曜限  | 授業形態  |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------|---------|-----|-----|-------|
| 歴史社会研究入門1 | 世界史を開く                                                                | 福嶋 千穂   | 春学期 | 水 4 | オンライン |
| 歴史社会研究入門2 | 歴史学入門                                                                 | 巽 由樹子   | 春学期 | 水 3 | オンライン |
| 政治社会論入門   | 政治学原論——〈医療・福祉・地域社会〉をめぐる死生学との対話                                        | 大川 正彦   | 春学期 | 火 4 | 対面    |
| 世界認識論入門   | レイシズム・スタディーズ入門                                                        | 梁 英聖    | 春学期 | 月 4 | オンライン |
| 世界認識論入門   | 文化人類学入門                                                               | 真島 一郎   | 春学期 | 火 5 | 対面    |
| 社会関係論入門   | Introduction to Gender: Cultural Construction of Gender in Comparison | 五十嵐 ミュゲ | 春学期 | 水 3 | 対面    |
| 社会関係論入門   | 労働と生存の社会学                                                             | 岩舘 豊    | 夏学期 | 集中  | 対面    |
| 法学入門1     | 法学                                                                    | 鈴木 美弥子  | 春学期 | 月 5 | オンライン |
| 法学入門1     | 法学入門1                                                                 | 根岸 陽太   | 春学期 | 木 4 | オンライン |

|         |          |       |     |     |       |
|---------|----------|-------|-----|-----|-------|
| 政治学入門 1 | 政治分析入門   | 松永 泰行 | 春学期 | 火 1 | 対面    |
| 政治学入門 2 | 政治学基礎    | 清水 謙  | 春学期 | 水 3 | オンライン |
| 政治学入門 3 | 国際政治学入門  | 谷 一巳  | 春学期 | 月 4 | 対面    |
| 経済学入門 1 | ミクロ経済学入門 | 菊地 和也 | 春学期 | 火 4 | オンライン |

## 秋学期・冬学期開講

| 科目名        | 授業題目                 | 担当者    | 学期  | 曜限  | 授業形態   |
|------------|----------------------|--------|-----|-----|--------|
| 地域社会研究入門 1 | 地域社会と SDGs           | 大石 高典  | 秋学期 | 水 3 | 対面     |
| 地域社会研究入門 2 | 地域研究入門               | 坂井 真紀子 | 秋学期 | 水 4 | 対面     |
| 歴史社会研究入門 1 | 現代史と映像（映画のなかのホロコースト） | 篠原 琢   | 秋学期 | 水 5 | 対面     |
| 歴史社会研究入門 2 | 歴史学入門                | 巽 由樹子  | 秋学期 | 水 3 | オンライン  |
| 政治社会論入門    | 政治学原論——倫理と環境正義       | 大川 正彦  | 秋学期 | 火 4 | 対面     |
| 社会関係論入門    | ジェンダー論入門             | 竹田 恵子  | 秋学期 | 月 4 | 対面     |
| 世界認識論入門    | Cultural Studies     | フィゲロア  | 冬学期 | 集中  | オンライン  |
| 法学入門 2     | 民法総論                 | 鈴木 美弥子 | 秋学期 | 月 5 | オンライン  |
| 政治学入門 3    | 国際政治経済学              | 藤田 将史  | 秋学期 | 金 5 | オンライン  |
| 政治学入門 3    | 国際政治学入門              | 波照間 陽  | 秋学期 | 水 3 | 対面     |
| 経済学入門 2    | マクロ経済学入門             | 前田 大輝  | 秋学期 | 月 4 | オンデマンド |

## 【シラバス検索の方法】

大学 HP のトップページ→**在学生の方へ**をクリック→下の方にスクロールすると→**シラバス検索**



または下の QR コードから



※シラバス検索では言語科目や教養科目の授業も調べることができます。シラバスを活用して有意義な授業計画を立ててください。

## 専門授業の柱となる 44 のキーワード

国際社会学部で学べることを 42 のキーワードにまとめてみました。気になるキーワードでシラバスを検索し、国際社会学部でどんな授業が開講されているか、調べてみてください。「国際社会学部『キーワード検索』のすすめ」も参照してください。

宗教 信頼 信用 労働 国家 ナショナリズム グローバリゼーション 帝国 植民地 社会運動  
アクティヴィズム 民主主義 紛争解決 平和構築 産業 貿易 貧困 開発 法 制度 国際機構  
地域機構 人権 人道 権力 暴力 思想 歴史 経済 資本主義 社会主義 環境 ジェンダー  
セクシュアリティ 移民 難民 教育 人種 レイシズム エスニシティ 都市 記憶 芸術 建築

## コース別履修モデル

では、具体的にどのように授業を履修したらよいのでしょうか。ここでコース別の履修モデルを紹介します。履修計画を立てる参考にしてください。もちろん、興味や希望する進路、また専攻地域や専攻言語によって履修内容は人それぞれです。自分なりの外大生活を組み立ててください。

※モデル内で紹介された授業題目名は 2018 年度から 2024 年度までの授業時間割に基づきます。年度によって、当該授業が開講されない場合や開講学期が異なる場合、題目名が変更される場合もあるので注意しましょう。言語科目と地域基礎科目は専攻地域によって履修方法が異なります。詳細は履修案内等を確認しましょう。教養科目は 1 年次・2 年次にそれぞれ 4～5 コマずつ履修すると良いでしょう。留学は制度によって、在学期間 4 年で卒業できるケースと、そうでないケースがあります。詳細は留学案内を確認しましょう。

| 地域社会研究<br>コースの履修モデル<br>Area Studies                                 |  | 1～2 年次：専攻語の運用能力を高めると同時に、専攻地域に応じた「地域基礎」を必ず履修し、地域の歴史・社会を詳しく学びます。導入科目を広く履修し、幅広い土台作りを心掛ける時期でもあります。 |                                                                                    |                                                                                                                                           |                                                                                    | 3～4 年次：それまでに修得した語学を武器に、地域に関する知識を深めつつ、ゼミを中心に「専門知」に磨きをかけていきます。多くの学生が留学プログラムに参加するなど、「専門知」の学びの場は世界に広がります。 |   |   |   |
|---------------------------------------------------------------------|--|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|
|                                                                     |  | 1 年生                                                                                           | 2 年生                                                                               | 3 年生                                                                                                                                      | 4 年生                                                                               |                                                                                                       |   |   |   |
|                                                                     |  | 春                                                                                              | 夏                                                                                  | 秋                                                                                                                                         | 冬                                                                                  | 春                                                                                                     | 夏 | 秋 | 冬 |
| <b>Model 1</b><br>北西ヨーロッパ・北アメリカ地域<br>×<br>歴史<br>ヨーロッパの歴史を深く探求したい！   |  | 専攻言語Ⅰ（英語Ⅰ）<br>ショートビジット リーズ大学（英）<br>ブリテン諸島と近世ヨーロッパ<br>連合王国の近現代史<br>ジェンダーから考える近現代アイルランド史         | 専攻言語Ⅱ（英語Ⅱ）<br>教養外国語（ドイツ語）<br>ジェンダーから読み直すアメリカ史（1）<br>アメリカ史入門Ⅰ<br>周縁から考えるグローバル・ヒストリー | 専攻言語Ⅲ（英語Ⅲ）<br>教養外国語（ドイツ語）<br>19・20 世紀の西洋／スペイン美術史<br>感情史の理論と実践<br>ハプスブルク帝国史研究<br>Iberian Studies                                           | 教養外国語（スペイン語）<br>歴史映画にみるポーランド近世<br>近世スペイン美術史<br>ジェンダーと高等教育<br>感情史とは何か<br>ヨーロッパ国際関係史 | 進路・出版社                                                                                                |   |   |   |
|                                                                     |  | 歴史学入門<br>世界史を開く<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目                                                        | ジェンダー論入門<br>現代史と映像<br>国際政治学入門<br>教養科目                                              | 歴史資料体論<br>国際政治理論<br>専門演習<br>「近代イギリスの政治・社会・文化」                                                                                             | 卒論演習<br>卒論テーマ～戦間期イギリスの政治と社会～                                                       |                                                                                                       |   |   |   |
|                                                                     |  |                                                                                                |                                                                                    |                                                                                                                                           |                                                                                    |                                                                                                       |   |   |   |
| <b>Model 2</b><br>東アジア地域<br>×<br>現代社会<br>経済大国中国のリアルを知りたい！           |  | 専攻言語Ⅰ（中国語Ⅰ）<br>GLIP 英語<br>現代中国の政治・経済・社会<br>中国の伝統と現代<br>中国の輪郭を知る                                | 専攻言語Ⅱ（中国語Ⅱ）<br>GLIP 英語<br>北京語言大学（中）<br>地域社会と経済生活<br>ナショナリズムとイスラーム主義<br>香港と中国の歴史    | 専攻言語Ⅲ（中国語Ⅲ）<br>中台関係論<br>現代台湾政治<br>東アジアポピュラー文化の越境移動<br>現代中国経済論                                                                             | 教養外国語（朝鮮語）<br>朝鮮戦争を考える<br>解放期南北朝鮮の政治と社会<br>国際経済学Ⅰ・Ⅱ<br>東アジアの経済発展と開発経済学             | 進路・IT 関連                                                                                              |   |   |   |
|                                                                     |  | 地域研究入門<br>レイシズム・スタディーズ入門<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目                                               | 地域社会と SDGs<br>歴史学入門<br>グローバルスタディーズの経済思想史<br>教養科目                                   | マクロ経済学入門<br>国際金融概論<br>貿易と直接投資<br>専門演習<br>「中国・香港の歴史と社会」                                                                                    | 卒論演習<br>卒論テーマ～慰安婦問題と東アジア地域～                                                        |                                                                                                       |   |   |   |
|                                                                     |  |                                                                                                |                                                                                    |                                                                                                                                           |                                                                                    |                                                                                                       |   |   |   |
| <b>Model 3</b><br>イベリア・ラテンアメリカ地域<br>×<br>女性<br>途上国の女性の地位向上のために働きたい！ |  | 専攻言語Ⅰ（スペイン語Ⅰ）<br>GLIP 英語<br>ラテンアメリカ政治経済入門<br>ブラジル地域研究入門<br>美術・建築からみるスペイン史                      | 専攻言語Ⅱ（スペイン語Ⅱ）<br>GLIP 英語<br>ジェンダーから読み直すアメリカ史（1）<br>周縁から考えるグローバル・ヒストリー<br>ジェンダー史概論  | 専攻言語Ⅲ（スペイン語Ⅲ）<br>伝統とともに今を生きる先住民民族マヤ<br>ブラジルの人と社会<br>国際社会の中のブラジル<br>近現代ベトナムの性と政治<br>国際法概論<br>Gender and Globalization<br>ジェンダーとキャリア形成の国際比較 | 教養外国語（ポルトガル語）<br>ジェンダーと高等教育<br>カナダの歴史<br>アフリカ人類学<br>国際法<br>実務的側面から見た国際機関           | 進路・海外大学院                                                                                              |   |   |   |
|                                                                     |  | 地域研究入門<br>ジェンダー論入門<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目                                                     | 現代史と映像<br>法学<br>クイア・スタディーズ<br>教養科目                                                 | 専門演習<br>「アメリカ地域研究演習」                                                                                                                      | 卒論演習<br>卒論テーマ～米墨国境での移民女性への暴力～                                                      |                                                                                                       |   |   |   |
|                                                                     |  |                                                                                                |                                                                                    |                                                                                                                                           |                                                                                    |                                                                                                       |   |   |   |

● は地域基礎（必修）、● は地域社会研究コース、● は現代世界論コース、● は国際関係コースで開講されている授業を指します。丸印のなかの「入」は導入科目、「概」は概論科目、「専」は専門科目を意味します。

## 現代世界論 コースの履修モデル Contemporary Global Studies

1~2 年次：専攻語の運用能力を高めると同時に、専攻地域に応じた「地域基礎」を必ず履修し、地域の歴史・社会を詳しく学びます。導入科目を広く履修し、幅広い土台作りを心掛ける時期でもあります。

言語能力を高める授業  
地域への理解を深める授業  
専門知を究める授業  
基礎的教養を身に付ける授業

3~4 年次：それまでに修得した語学を武器に、地域に関する知識を深めつつ、ゼミを中心に「専門知」に磨きをかけていきます。多くの学生が留学プログラムに参加するなど、「専門知」の学びの場は世界に広がります。

### Model 1 中央ヨーロッパ地域 × 環境 環境先進国ヨーロッパの 経験から学びたい！

| 1 年生                                                                                                                       | 2 年生                                                                                                                         | 3 年生                                                                                                                   | 4 年生                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻言語 I (ドイツ語 I)<br>GLIP 英語<br>ドイツ・ヨーロッパ中世史<br>ドイツ語圏の文化<br>考える世界史<br>歴史学入門<br>現代史と映像<br>政治学原論～倫理と政治<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目 | 専攻言語 II (ドイツ語 II)<br>教養外国語 (フランス語)<br>ドイツ近現代史<br>中東欧国際関係史<br>政治学原論～倫理と環境正義<br>グローバルスタディーズの経済思想史<br>歴史資料体論<br>国際政治学入門<br>教養科目 | 教養外国語 (フランス語)<br>現代ヨーロッパにおける戦争の記憶<br>現代世界論概論 I A<br>自然と人間の社会史<br>環境保全論 I・II<br>環境保護・脱炭素のドイツ・ヨーロッパ<br>専門演習<br>[環境保全論演習] | 教養外国語 (イタリア語)<br>感情史の理論と実践<br>ドキュメンタリー映画論<br>感情史とは何か<br>歴史から教訓は学べるか<br>西欧現代政治論<br>進路 メーカー<br>卒論演習<br>卒論テーマ～ヨーロッパにおける環境意識の変遷～ |

### Model 2 東南アジア第 1 地域 × ジェンダー エンタメ産業における ジェンダー問題を 考えたい

| 1 年生                                                                                                                                   | 2 年生                                                                                                            | 3 年生                                                                                                                                                          | 4 年生                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻言語 I (フィリピン語 I)<br>GLIP 英語<br>フィリピン研究入門 1<br>フィリピン研究入門 2<br>東南アジア研究入門<br>文化人類学入門<br>地域研究入門<br>レイシズム・スタディーズ入門<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目 | 専攻言語 II (フィリピン語 II)<br>GLIP 英語<br>ジェンダー史概論<br>東南アジア地域研究特論<br>ジェンダー論入門<br>ミクロ経済学入門<br>質的・社会的調査法<br>社会学原論<br>教養科目 | 専攻言語 III (フィリピン語 III)<br>島嶼部東南アジア政治経済社会史<br>東南アジアの物質文化<br>近現代ベトナムの性と政治<br>現代世界論概論 I A<br>ケアの倫理と政治理論<br>日常生活とつながるジェンダー 1・2<br>専門演習<br>主：[社会学専門演習] 副：[ジェンダー論演習] | 教養外国語 (朝鮮語)<br>医療から見るベトナム近現代史<br>森崎和江とフェミニズム<br>ジェンダーとキャリア形成の国際比較<br>ドキュメンタリー映画論<br>自由論<br>進路 マスコミ<br>卒論演習<br>卒論テーマ～アジアにおける女性とエンタメ～ |

### Model 3 西南ヨーロッパ地域 × 移民・教育 移民の子どもたちを 笑顔にしたい！

| 1 年生                                                                                                                                                           | 2 年生                                                                                                                  | 3 年生                                                                                                                                                        | 4 年生                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻言語 I (フランス語 I)<br>GLIP 英語<br>パリ市を通して見るフランス社会<br>フランス史概説<br>History of Contemporary France<br>現代史と映像<br>政治学原論～倫理と政治<br>レイシズム・スタディーズ入門<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目 | 専攻言語 II (フランス語 II)<br>GLIP 英語<br>アフリカ地域研究入門<br>ナショナリズムとイスラーム主義<br>文化人類学入門<br>政治学基礎<br>ユートピアと社会契約<br>質的・社会的調査法<br>教養科目 | 専攻言語 III (フランス語 III)<br>近世フランスにおける民衆の経験を考える<br>＜境界＞としてのイタリア<br>私たちのアナキズム研究<br>[教育問題]と社会学<br>国際社会学<br>移民と国家の社会学<br>感情史とは何か<br>教職課程プログラム<br>専門演習<br>[国際社会学演習] | 教養外国語 (アラビア語)<br>アフリカ文化論<br>レイシズム・スタディーズ 1・2<br>市民権/国籍の政治社会学<br>国際教育論<br>紛争後社会と和解<br>進路 教育関連<br>卒論演習<br>卒論テーマ～移民の子どもとフランス社会～ |

● は地域基礎 (必修)、● は地域社会研究コース、● は現代世界論コース、● は国際関係コースで開講されている授業を指します。丸印のなかの「入」は導入科目、「概」は概論科目、「専」は専門科目を意味します。

## 国際関係 コースの履修モデル International Relations

1~2 年次：専攻語の運用能力を高めると同時に、専攻地域に応じた「地域基礎」を必ず履修し、地域の歴史・社会を詳しく学びます。導入科目を広く履修し、幅広い土台作りを心掛ける時期でもあります。

言語能力を高める授業  
地域への理解を深める授業  
専門知を究める授業  
基礎的教養を身に付ける授業

3~4 年次：それまでに修得した語学を武器に、地域に関する知識を深めつつ、ゼミを中心に「専門知」に磨きをかけていきます。多くの学生が留学プログラムに参加するなど、「専門知」の学びの場は世界に広がります。

### Model 1 オセアニア地域 × 国際法 先住民の権利の問題を SDGs の観点から考えたい！

| 1 年生                                                                                                                | 2 年生                                                                                                                                           | 3 年生                                                                                                            | 4 年生                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻言語 I (英語 I)<br>GLIP 英語<br>オセアニア地域基礎<br>オセアニアの歴史と社会 (1)(2)<br>法学<br>民法総論<br>レイシズム・スタディーズ入門<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目 | 専攻言語 II (英語 II)<br>諸地域言語<br>周縁から考えるグローバル・ヒストリー<br>地域社会と SDGs<br>ミクロ経済学入門<br>グローバルスタディーズの経済思想史<br>Theory and Practice of United Nations<br>教養科目 | 教養外国語 (フランス語)<br>「先住民 (族)」からみる<br>「先住民」から考える<br>国際秩序論<br>国際法 I・II<br>国際法事例研究<br>グローバル環境ガバナンス<br>専門演習<br>[国際法演習] | 教養外国語 (イタリア語)<br>カナダの歴史<br>実務的側面から見た国際機関<br>開発経済学<br>比較福祉政治<br>現代社会論<br>進路 海外大学院<br>卒論演習<br>卒論テーマ～先住民の権利保護と持続可能な開発～ |

### Model 2 南アジア地域 × 国際政治 外交官として日本と外国を 繋ぐ架橋になりたい！

| 1 年生                                                                                                                                | 2 年生                                                                                                                                              | 3 年生                                                                                                            | 4 年生                                                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻言語 I (ヒンディー語 I)<br>GLIP 英語<br>南アジア研究入門 1<br>南アジア研究入門 2<br>パキスタン研究入門 1<br>国際政治学入門<br>世界史を開く<br>政治学原論～倫理と政治<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目 | 専攻言語 II (ヒンディー語 II)<br>GLIP 英語<br>パキスタン・アフガニスタン研究入門<br>ナショナリズムとイスラーム主義<br>国際政治経済入門<br>国際社会の中の日本<br>政治分析入門<br>国際安全保障論<br>外交官等国家・地方公務員プログラム<br>教養科目 | 専攻言語 III (ヒンディー語 III)<br>アフガニスタン・パキスタン<br>近現代政治社会史 1・2<br>国際法概論<br>日本外交論<br>歴史認識論<br>国際法 I・II<br>専門演習<br>[国際協調] | 教養外国語 (アラビア語)<br>インド・パキスタン分離独立論 1・2<br>アラブ地域政治事情<br>紛争解決論<br>ゲーム理論 1<br>ヨーロッパ国際関係史<br>進路 外務省専門職<br>卒論演習<br>卒論テーマ～インド太平洋をめぐめる国際政治～ |

### Model 3 東南アジア第 2 地域 × 経済 グローバル・バリュー チェーンの課題について 考えたい！

| 1 年生                                                                                                           | 2 年生                                                                                                                       | 3 年生                                                                                                                                  | 4 年生                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻言語 I (タイ語 I)<br>GLIP 英語<br>タイ研究入門 1・2<br>東南アジア研究入門<br>ミクロ経済学入門<br>地域研究入門<br>マクロ経済学入門<br>基礎リテラシー・基礎演習<br>教養科目 | 専攻言語 II (タイ語 II)<br>教養外国語 (中国語)<br>地域社会と経済生活<br>現代東南アジア経済論<br>国際政治経済入門<br>ジェンダー論入門<br>貿易と直接投資<br>計量経済学入門<br>国際金融概論<br>教養科目 | 専攻言語 III (タイ語 III) 教養外国語 (中国語)<br>ラオス経済論<br>タイ政治経済論<br>フィア史の探究<br>開発経済学<br>国際経済学 1<br>ビジネス法<br>ラテン・アメリカの経済発展と開発経済学<br>専門演習<br>[国際経済論] | 教養外国語 (朝鮮語)<br>現代中国経済論 1・2<br>環境保全論 1<br>国際経済学 2<br>開発経済学と東南アジア地域研究<br>進路 政策金融機関<br>卒論演習<br>卒論テーマ～アジア経済とバリュー・チェーン～ |

● は地域基礎 (必修)、● は地域社会研究コース、● は現代世界論コース、● は国際関係コースで開講されている授業を指します。丸印のなかの「入」は導入科目、「概」は概論科目、「専」は専門科目を意味します。



授業の選択に不安がある時は……  
履修相談コーナーへ！ 教員が相談のります  
4 月 8 日 (火)・9 日 (水) 11:00-12:30  
本部管理棟 2 階大会議室

### 3. 国際社会学部で社会／世界を学ぶ

#### ■スタディツアーなど

##### ・世界教養プログラム「スタディツアー：国連研修プログラム」（冬学期）

通称「国連スタディツアー」。冬学期の集中授業として開講され、国連の諸活動などについて秋学期中に事前学習したのち、ニューヨークの国際連合本部および関連機関での現地研修に参加します。参加希望者多数の場合は選考があります。

##### ・世界教養プログラム「ウズベキスタン スタディツアー」（冬学期）

本学の協定校タシュケント国立東洋学大学との学生交流や、サマルカンドやブハラの世界遺産地区の見学などを通じて、中央アジアの歴史や生活文化、現地社会の諸事情を実地に学べる機会です。

##### ・世界教養プログラム「地域活性化のためのスタディツアー」（夏・冬学期）

通称「山形スタディツアー」。山形県の農山村に滞在し、地域の歴史や文化、現在の産業などの体験学習を行います。加えて地元自治体や住民、観光協会等と連携して、地域の魅力を海外在住者向けに多言語で発信するコンテンツを作成し、海外からのインバウンドを推進することで地元成果を還元する取り組みです。この授業は、山形県の自治体と協働して実施されます。

#### ■インターンシップ

就職活動につながるインターンシップ以外にも、広く社会や仕事を知るためのインターンシップの機会が用意されています。海外でのインターンシップの機会もあるので、積極的に参加してください。

#### ■公務員試験対策授業

国際社会学部では、国家公務員総合職試験、外務省専門職の受験科目区分に対応した授業がそろっています。地方公務員の試験にも対応しています。

#### ■ボランティア活動

ボランティア活動は、VOLAS（ボランティア活動スペース：研究講義棟 2 階 206 室）で紹介をしているほか、活動の相談、サポートも行っています。

#### ■英語による授業

英語によって行われる授業は世界教養プログラムの GLIP 英語科目のほか、専修プログラムでも多く開講されています。英語による授業の履修は世界中から外語大に学びにきている留学生と交流するチャンスでもあります。

#### ■メディア翻訳

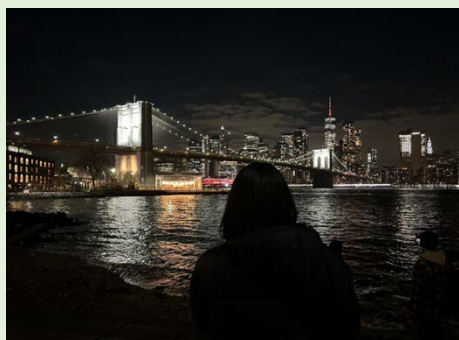
専攻言語によっては、メディアの翻訳を通して現地理解と語学力を高める授業も行われています。翻訳された記事の一部は「日本語で読む世界のメディア」で公開されています。

<http://www.el.tufts.ac.jp/tufsmmedia/>

#### ■留学

ショートビジット、派遣留学、休学留学など多様な留学の機会があります。1 年生の夏学期から参加できるプログラムもあります。

「国連スタディツアー」体験記（三角はるか 北アメリカ/英語 現代世界論コース）



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は2年生の冬に「国連研修プログラム」に参加しました。実際にニューヨークの国際連合本部および関連機関に足を運び、そこで働いている人たちの話を聞くことができたことは、今でもとても貴重な経験だったと思っています。他にも空き時間を利用して、ニューヨークにある大学や観光地も巡り、ニューヨークで暮らす人々や街並みの様子が今でも強く印象に残っています。一週間あっという間のスタディツアーでしたが、今では国連で働くことがキャリアの選択肢の一つになるほどこのプログラムは自分にとっても大きな影響を与えてくれました。

ました。

東京外大では勉強だけでなく、部活や学生生活を通して日々いろいろなことを学んでいます。留学生から運動をする機会が少なく相談を受けることが度々あり、女子バスケット部の部長を務めていた時には留学生も部活に積極的に受け入れ、初の試みとしてバスケの試合やアクティビティを気軽に体験できるイベントを開催するなどしました。女子バスケット部はもともと人数が少なかったのですが、今では様々な言語が飛び交う、とても国際色豊かな部活となりました。皆さんもこれから東京外大で勉強・部活・留学などを通して今まで経験したことがないことを体験していくことになると思います。大学はいろいろなことに挑戦できる貴重な時間だと思うので、思う存分学生生活を楽しんでください！



学外活動紹介（岩本玲於奈 東アジア／朝鮮語 現代世界論コース）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は国際社会学部朝鮮語科で、日朝の歴史問題、特に「慰安婦」問題について学んでいます。入学時はジェンダー平等について興味があり、その後歴史問題についてより深く学びたいと思いました。そして1年生の春休みに「希望のたね基金」（日本の若者が「慰安婦」問題を学び、性暴力のない社会づくりに役立てるための基金）の若者ツアーに参加しました。4泊5日間にわたって韓国で博物館を訪問したり現地で活動している大学生と議論したりするなど、複数の視点から歴史を学ぶことができます。



ツアー参加後は、自ら何か行動しなければと思い、「希望のたね基金」の運営委員になりました。イベントを企画・運営するなかで、他大学の学生や教授、社会人の人などに関わり、自分の視野も広がりに常に新しい学びがあります。

外大以外のコミュニティにも入ることで、刺激を受け成長することができると思います。自分の直感を大事に、新しいことにも挑戦してみてください！



## 留学の種類

| 本学の制度                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 派遣（交換）留学                       | <p>本学の協定校へ、学生交流協定に基づいて留学するもの。</p> <p>期間は原則として、3ヶ月以上1年以内。</p> <p>現地学生と共に現地の言葉で専門的な内容を学ぶ。</p> <p>留学先で取得した単位は本学の卒業単位として認められるため、4年で卒業することも可能（単位認定にあたり審査あり）。</p> <p>本学の授業料を納入し、留学先の授業料は免除される。</p> <p>毎年10月に学内での募集、人数枠に限りがあるため、選考あり。</p> <p>自分の専攻言語と異なる地域への留学も可能。</p>                          |
| 休学しての留学<br>（休学留学・自由留学）         | <p>本学を休学して留学するもの。</p> <p>事前に申請すれば単位認定可能、ただし審査あり。</p> <p>単位認定あり「休学留学」（3年次以降）、単位認定なし「自由留学」</p> <p>自分で探してきた海外の大学・教育機関に留学する（協定校でなくても可）</p> <p>学部留学、語学留学、いずれも可。休学留学の期間は原則、6ヶ月以上1年未満（選択する休学期間中の申請は2回が上限）。自由留学は最長3年。</p> <p>本学の授業料は免除（在籍料などは必要なし）、留学先の授業料を支払う休学をするため、4年間での卒業は不可。多くの場合、5年卒業。</p> |
| 短期留学<br>（ショートビジットプログラム）        | <p>時期：夏学期もしくは冬学期</p> <p>期間：3週間～6週間程度（留学先による）</p> <p>留学先：本学の協定校</p> <p>内容：言語を学ぶもの、専門分野を学ぶもの（英語にて）</p> <p>参加費用（授業料、渡航費、滞在費など）：すべて自己負担</p>                                                                                                                                                  |
| その他の留学<br>（スタディツアー・インターンシップなど） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディツアー</li> <li>・ニューヨーク国連スタディツアー等</li> <li>・インターンシップ</li> </ul>                                                                                                                                                                                 |

※詳しくは「留学案内」、本学のウェブサイトをご確認ください。

<https://www.tufs.ac.jp/student/studyabroad/>

なお、海外でのインターンシップについては、キャリアセンターのサイトもご確認ください。

<https://www.tufs.ac.jp/student/careersupport/>

金銭的な負担を軽減するためには奨学金を獲得することをご検討ください。奨学金には返済不要のもの（給付型）、返済が必要なもの（貸与型）がありますのでご注意ください。また、奨学金の申し込み時期は実際に留学する1年以上前に設定されているものもあります。早めの情報収集を心がけましょう。情報収集に役立つサイトは次の通りです。

本学ウェブサイト「海外への留学に関する奨学金」

[https://www.tufs.ac.jp/student/tuition\\_scholarship/scholarship/nihongakusei.html](https://www.tufs.ac.jp/student/tuition_scholarship/scholarship/nihongakusei.html)

日本学生支援機構「留学のための奨学金」

<https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

海外渡航の際は、海外旅行保険・海外留学保険への加入を義務付けています。大学の制度を利用して留学する場合は、『学研災付帯海外留学保険（「付帯海学」）』への加入が必須です。加入手続きは、それぞれの留学説明会などでご案内しています。

## 留学体験記・留学相談

みなさんの先輩方がどのような留学をしてきたのかを知りたい方には、留学体験記をご一読することをお勧めします。

- ・トビタ君留学日記  
<https://www.tufts.ac.jp/studyabroad/tobita/>
- ・留学体験報告  
<https://www.tufts.ac.jp/student/studyabroad/taiken.html>
- ・ショートビジットプログラム体験報告書  
[https://tobita.tufts.ac.jp/study\\_abroad\\_report\\_sv.aspx](https://tobita.tufts.ac.jp/study_abroad_report_sv.aspx)

※学内では、毎年10月に、「TUFS Study Abroad Fair」を開催し、留学経験者の体験談を聞く場を設けています。

**FAIR 2024**

そうだ、留学しよう

東京外国語大学 留学フェア2024

留学関係の説明会、体験報告会、座談会などを開催します!!

| 日                                     | 火                                     | 水                                                          | 木                                     | 金                                     |
|---------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 10/1<br>留学生向け説明会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 10/2<br>留学先選び説明会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 10/3<br>留学先選び説明会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催                      | 10/4<br>2025年度派遣留学<br>説明会<br>Zoom開催   |                                       |
| 10/7<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催  | 10/8<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催  | 10/9<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催                       | 10/10<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 10/11<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 |
| 10/14<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 10/15<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 10/16<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催                      | 10/17<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 10/18<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 |
| 10/21<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 10/22<br>留学体験報告会<br>「留学先選び」<br>Zoom開催 | 開催時間は、軽体み(11:50~12:30)です。<br>※10/2のアフリカ留学体験報告会のみ6時(17:40~) |                                       |                                       |

留学支援共同利用センター  
研究講義棟215-2 (旧AVライブラリ)  
E-mail: ryugakushien@tufts.ac.jp  
Tel: 042-330-5113

## 留学支援共同利用センター

留学支援共同利用センターでは、個別に留学についての相談を受け付けています。留学について漠然と考え始めた段階から、留学先への申請やビザの申請方法等具体的なものまで、あらゆる相談に応じています。相談は予約制となっています。相談をご希望の方は事前に「留学相談申込書」を、当センターにご提出いただくか、メールでお送りください。



留学支援共同利用センター 研究講義棟2階215-2

e-mail: ryugakushien[at]tufts.ac.jp ※[at]を@に変えて送信してください。

tel: 042-330-5113 <https://www.tufts.ac.jp/institutions/facility/ryugakushien.html>

(「留学相談申込書」は上記サイトからダウンロードできます。オンライン留学相談フォームも利用できます。)

### 留学体験記 横山ひかる（東アジア／朝鮮語 現代世界論コース）



新入生新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます！長かった受験生活が終わり、大学での新たな出会いや生活に期待を寄せていることと思います。

私は大学3年の夏から1年間、ニュージーランドの首都ウェリントンに派遣留学に行きました。私はかねてから、異文化交流やジェンダーの問題に興味を持っていて、現在所属しているゼミでも同様の研究をしています。そんななかで、先住民マオリの子孫やアジアを中心とした移民など、多様な民族や文化をもつ人々が共生し、さらに女性の社会進出が世界的に見ても進んでいるニュージーランドという国に魅力を感じ、留学先に決めました。留学生活は「多様性」を感じる日々の連続でした。特に、私が滞在していた寮のルームメイトたちは全員が国籍や生まれた国が異なる人達でした。入寮当初は文化や価値観の違いに苦悩することもありましたが、彼女たちとの交流を通じて多様な文化や価値観を受け入れ、尊重する姿勢を徐々に身につけていきました。留学生活は慣れない環境に身を置くため、言語や文化の壁にぶつ

かって悩むこともあるかもしれませんが、それ以上にかけがえのない出会いや学びが多く、そういった体験を自己成長に繋げていくことができるとても貴重な経験です。大学で留学を考えている方も多いと思います。ぜひ皆さんには、留学生活を通じて幅広い視野や沢山の学びを得てほしいと思います！

## 国内の大学等との連携

※詳しくはこちら <https://www.tufs.ac.jp/collaboration/national/>

### ■多摩地区5大学単位互換制度

本制度は、多摩地区5国立大学法人（東京外国語大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学、一橋大学）間の相互の交流と教育課程の充実を図ることを目的としています。本制度により、受入大学で授業科目を履修し、授与された単位は、本学において修得単位として認定します。

### ■西東京3大学連携

多摩アカデミックコンソーシアム（TAC）は、国際基督教大学（ICU）、国立音楽大学、東京経済大学、津田塾大学、武蔵野美術大学、東京外国語大学の6大学で結成する大学協力機構です。TACに加盟している大学間では、単位互換制度や図書館の相互利用、学生・教職員の交流などを行っています。

### ■教育交流

東京外国語大学20大学及び5機関と包括協定を締結しています。

2024年度には沖縄大学との間に交流協定および単位互換協定が結ばれ、2025年度より学生の派遣・受け入れ（「国内留学」）が始まります。

※対象：第3年次以上の学生（3年次進級予定の者を含む。出願期間は毎年10月～11月頃を予定）

### ■単位互換制度

本学の学生としての身分を保有したまま、他の大学において指定された授業科目を履修することができます。

## 4. 学生によるゼミ案内

### ～うちのゼミ紹介します！～

国際社会学部では、3 年生からゼミを履修します。（注：指導教員が開講する専門演習が「本ゼミ」です。普段は「ゼミ」と呼びます）教員の指導を受け、ゼミ仲間との議論を経ながら自分の研究を磨き、最後に卒業論文としてまとめることになります。…といっても、ゼミの具体的なイメージがなかなか湧かない、という学生も多いのではないのでしょうか。そこで、既にゼミを経験した皆さんの先輩の声の一部を、ここに紹介します。ゼミ生の声から、ゼミの雰囲気を感じてみてください。

#### 地域社会研究コース 生駒美樹ゼミ

生駒ゼミは文化人類学の手法を学べるゼミで、主に東南アジア専攻の学生が所属しています。文化人類学はフィールドワーク調査が必要なため、ゼミでは学生が卒論のテーマに関連する文献を持ち寄り、一緒にその手法を学んでいます。生駒先生は穏やかで優しい先生で、学生の意見を肯定しつつ様々なアドバイスを提供してくれます。自分の興味がまだ明確に定まっていない方も、生駒ゼミを通して自身の新たな興味を見つけられるはずです。そしてゼミ内では、文献を読んだ後に学生がそれぞれの所属地域での事例を共有したり、身の回りの生活とも照らしながらするため、毎回刺激を受けること間違いなしです。また、生駒先生が実際に赴いたフィールドワークの経験も話してくれるため、フィールドワークの雰囲気や全体像を細かく掴むことができます。新しい見方や発見を得ながら、日々の「あたりまえ」に問いを投げ掛け合えるそんな場所が生駒ゼミです。（S.N. K.F.9）

#### 地域社会研究コース 青木雅浩ゼミ

青木ゼミはいわゆるモンゴル語科の語科ゼミですが、先生はロシア語や旧ソ連地域の事情にも通暁しておられます。私はロシア語科の所属で、卒論でもロシアの問題をテーマにしましたが、手厚い指導を受けることができました。モンゴルはもちろん、ロシア・旧ソ連地域について扱いたい学生にもおすすめできるゼミです。1人あたり1コマ分の時間を使って発表し、先生とゼミ生の指摘を受けながら卒論の内容と方向性を修正できます。この発表と修正の繰り返しが卒論全体の完成につながります。先生から特に念入りにご教授いただいたのは論理的整合性や問題へのアプローチについてでした。これらの点をしっかりと検討することは、どんな卒論にとっても重要です。また、私の卒論テーマは他のゼミ生にとってあまり馴染みのない分野でしたが、だからこそ説明不足の部分を客観的に指摘してもらえたことも勉強になりました。丁寧な指導と議論の場が開かれていることがこのゼミの特徴です。（中崎諒）

#### 地域社会研究コース 青山弘之ゼミ

地域研究の意義、それは「劣化する智への最後の牙城」（先生の言葉をお借りして）。遠い中東の情報も日本にやってくるようになった現代社会。「内戦」「民主化」「イスラーム」といった便利な言葉によって中東の事実が歪められたり隠れたりしていませんか？このゼミでは、批判的な目を持ちながら、様々なツールを使って、中東で本当に起こっている事実を分析します。ここで使えるのが、現地の言語、文化への理解、留学や交流を通して得た人々の考え方、「肌感」です。青山ゼミでは、3 年生で「テロとの戦い」や「膠着するシリア」など、先生の専門と関連した分野の本に関して議論します。4 年生になると各々自分の関心あるテーマ（中東に関わっていれば OK）に合わせた本を持ち寄り、議論します。とここまで書いてきましたが、難しい話ではありません。あなたの中東への好奇心を入り口に、中東の世界へ没入し、私たちとともにその魅力に浸ってみませんか！（大屋千寛）

#### 地域社会研究コース 大石高典ゼミ

“おいしい”(OISHI) ゼミの一番の特徴は、地域・言語に縛られず、自由に研究テーマを設定できることにあります。自分の専攻地域に限らず、今の自分にとって最も関心のあるもの（農業、民族、料理、音楽、ダンスなど）をテーマに研究を進めることができます。大石ゼミでは、「フィールドワーク」を主な手法としていますが、そのフィールドは遠く離れた海外に限りません。自分のバイト先や所属しているサークル、通い慣れている場所など、普段の生活圏がフィールドとなることもあります。「日常をフィールドワークする」という視点の土台を作るために、3 年春学期にはフィールドワークに関連した書籍の輪読を行います。「ゼミ」と聞くとなんだか堅苦しく感じますが、大石ゼミには常にアットホームな雰囲気が漂っており、研究に息詰まった時には、いつでもゼミ友や大石先生に相談できる環境が整っています。のびのびした環境で、自分のやりたいことにとことん向きあってみませんか。（小森まな）

#### 地域社会研究コース 菊池陽子ゼミ

菊池ゼミでは語科・専攻地域に関わらず東南アジアに興味のある学生が所属しています（私もポルトガル語科です！）。東南アジア地域に関することであれば研究の時代や国は幅広く、各々が興味のある分野を研究することができます！担当の菊池先生はラオス史を専攻なさっています。ゼミの活動は本・資料の輪読が中心で、ゼミ生全員の意見を聞きながら理解を深めていきます。2024 年度の春学期には東南アジア・アジア諸地域の戦後の政治指導者についての本を輪読しました。秋学期には 1930 年代にカンボジアで発行された新聞の日本語訳の輪読を行い、当時の状況や筆者の主張を考察しました。ゼミ生の人数はあまり多くありませんが、その分全員の意見や考えをしっかりと聞くことができるのが良い点だと感じています。東南アジア地域に興味がある方は是非お越しください！他地域の方も歓迎です！（伊藤滯里）

#### 地域社会研究コース 木村暁ゼミ

木村ゼミでは主に中央アジア地域に関連する事柄について時代や学問領域を問わず、自由な研究が可能です。ゼミ生は各自卒業論文の執筆に向けテーマを設定し、授業内では各自の興味関心に基づく発表（論文批評、訳注）を行います。具体的な授業形式については相談の時間が十分に設けられており様々な形式を考えることが可能ですが、いずれも毎回の発表に向け各学生の自主性と独立性を重んじている点は本ゼミの特徴と言えます。発表の後には学生同士での質疑応答と情報共有、そして先生からの研究手法や論の組み立て、翻訳や形式に関するきめ細かなアドバイスを受けることができるため自身の研究プロセスをじっくりと振り返りながら修正、進行してゆくことが可能です。「もうすでに卒論のテーマが決まっている」という方も、「まだ研究テーマが決まっていなくても中央アジア/旧ソ連地域の研究をしようかな」という方も互いに気負わず各自のペースで研究が可能ですので、当該地域に少なからぬ興味関心がある方はぜひ木村ゼミをご検討ください。（今井啓太）

#### 地域社会研究コース 久米順子ゼミ

久米ゼミは「美術史研究に精力的に取り組みたい人」または「自分が本当に興味を持つテーマについてののびのびと卒論を書きたい人」におすすめます！現ゼミ生の前者と後者の比率は3：7という肌感です。先生は、西洋美術史全般や建築・文化・音楽などに造詣が深くいらっしゃり、美術史に興味がある方には最適な研究環境です。ゼミでは1年を通して1人約4回、個人の興味関心について自由にプレゼンをします。あやふやな興味を言葉にして整理する絶好の機会です。それをしっかり受け止め新しい視点や情報を提供して下さる先生と、等身大で質問し合える専攻言語・地域が様々なゼミ生は、探求心を育てる素晴らしい土壌になってくれます。このゼミには強制的な課題や研究テーマの縛りが無いからこそ、日々自発的に自分の興味関心を模索し文献にあたることがとても重要です。そんなゼミ生を、先生は卒論の執筆からその心理的な面まで、きめ細かくサポートして下さいます。（陰山真依）

#### 地域社会研究コース 倉田明子ゼミ

倉田明子先生のゼミでは、主に「歴史」を軸に中国・香港地域を考えます。ただ、対象地域は上記に限定されず、シンガポールやマレーシア等、幅広く取り扱われます。ゼミ形式に関して、三年次では事前に論文を読んでレジュメを作成し、授業で疑問や自分の考えを話し合います。私は「容閔一米中間で揺らぎ上昇する境界者」「中華料理のモダンテイ」という論文が印象に残っています。歴史上の人物の生き方や当時に残された文献から、現在の問題を考える上での多角的な視点と知識を得られ、卒業論文を書く際に大いに役立ちました。四年次は卒論執筆が中心で、先生と相談しながら方針を決めてきます。卒論のテーマは自由。それぞれの興味関心に合わせて、卒業論文に取り組むことができます。学生個人の関心と主体性が尊重された中で学びを深めることができるゼミだと思います。「中国」「香港」「歴史」(+関連した地域やテーマ)に関心がある方、ぜひ倉田ゼミへお越しください。（相馬佳菜子）

#### 地域社会研究コース 鈴木義一ゼミ

鈴木ゼミはロシアを中心とした旧ソ連圏諸国を対象とした地域研究を学ぶゼミです。政治・経済・社会・外交といった社会科学の諸分野からテーマを選ぶことができ、対象となる時代も近代から現代と幅広いのが特徴です。実際に現在所属している学生のテーマもアルメニア現代政治や帝政ロシアの民族政策、ソ連外交史など多岐にわたっています。3年春学期のゼミでは当初示された課題文献を読んで学生がそれについて発表を行い、それを基にした議論を行います。春学期終盤から秋学期は卒論を見越して課題文献の選択が各自のテーマにあわせて自由となり、議論もそれぞれの専門にあわせて深まります。そして秋学期末には卒論の予行練習として16,000字程度のゼミ論文を執筆し、こうした準備を踏えて4年次には卒論執筆に取り組みます。近現代の旧ソ連圏を対象にした地域研究を行いたい学生を鈴木ゼミは歓迎しています。（小副川将剛）

#### 地域社会研究コース 芹生尚子ゼミ

本ゼミでは歴史学的手法を用いて自身の関心領域を広げ掘り下げていきます。指導教員である芹生先生はフランス近世史をご専門とされていますが他の地域、他の時代を扱うことも可能です。授業の流れとしてはまず学期始めに自分の関心分野について扱った文献のリストを各々作ります。分野があまり定まっていない場合は先生と相談しながら仮テーマを設定します。リストができたらその中から読む文献を選びレジュメを作成し発表を行います。発表が終わるとまずは生徒同士で質疑応答を行い、その後先生からの講評をいただき関連する記事や動画を紹介していただきます。分野選択も発表も個人の裁量次第ですが先生もゼミ生も真摯に自分に付き合ってくれるゼミだと思います。フランスの歴史に興味がある方、フランス語で卒業研究をしたいと考えている方、テーマが明確でなくとも歴史学をやりたい方、ぜひ一度ゼミの雰囲気を見に来てください！（K.K.）

#### 地域社会研究コース 左右田直規ゼミ

左右田ゼミは主に島嶼部東南アジア政治社会史がメインテーマとなっていますが、最終的にどの分野に焦点を当てるのかは各自の興味に委ねられており、ジェンダーや伝統文化、教育、宗教など、ゼミ生の関心は幅広いです。3年次前半では共通の文献を読み、「社会のあらゆる物事は時の流れの中で作られ、なくなり、変化する」という視点を養います。3年次後半からは各自の関心分野に関する文献を読み進め卒論執筆に繋げていきます。先生からはいつも親身なアドバイスを頂け、さらに基本的には少人数なゼミなので、ゼミ生同士でも普段から刺激し合える環境に身を置けます。私はこのゼミに入って、はじめて学問や興味を追求することの楽しみを実感できました。時には学業に追われたり、自分の未熟さに悩むこともあるかもしれませんが、やりがいを感じられるゼミだと思います。東南アジアが好き、卒論を頑張りたい、そんな方におススメです！（津田詩雨）

地域社会研究コース 巽由樹子ゼミ 「一次史料をもとに、自分ならではの解釈や問いを立てる」。巽先生のこの言葉のもと、本ゼミではロシア史やメディア史を中心とした多様な研究テーマを掘り下げることができます。3年次では「史料とは何か？」という問いを入り口に、ソ連期の雑誌や新聞などを一次史料とした実践演習を行います。ゼミ生は自分で選択した史料の分析、考察を発表し、他のゼミ生や巽先生との議論を通じて理解を深めることができます。このような演習を通じて、自分の興味関心を発見し、卒論テーマを見定めていきます。卒論執筆時は、文字通りマンツーマンで巽先生と繰り返し面談を行い、先行研究集めから章立て、原稿執筆を進めます。柔和な笑顔が素敵な巽先生の周りには、語科を超えて学生が集まる傾向があるようで、温かく、穏やかな雰囲気 of ゼミです。アットホームな巽先生とゼミ生に囲まれて、「自分らしい問い」に向き合いたい方はぜひご検討ください！（恩田はな）

#### 地域社会研究コース 千葉敏之ゼミ

私が千葉ゼミを通して得たものは、本気で学問に向き合ったという自信と、知ることの喜びだといえます。そしてその考えは卒業して5年が経った今も変わらないままです。千葉ゼミでは、毎講義に中世ヨーロッパ世界との新たな出会いがあります。そしてその出会いを最も喜び、最も真剣に向き合っているのは千葉先生といえるでしょう。ゼミ生はそんな先生の姿をみて、新たな知を得る機会は皆に平等に与えられていること、それから、純粋な知的探求の喜びを知ることになります。千葉ゼミを通して体得する、文献の読み方・史実の捉え方・考察の論じ方、すなわち歴史を自分なりに解釈する方法、その作法は生涯を通じてあなたの武器であり、新たな知という喜びをもたらす財産になります。卒業後、エレクトロニクス企業に勤め、現在は縁あって南米に暮らす私自身、新たな世界に触れる度にそのことを実感しています。是非あなたにも、自身の知的好奇心の赴くままに、先生と共に中世ヨーロッパ世界に没入する、そんな千葉ゼミでしかできない経験をしてほしいと思います。（中野遥香）

#### 地域社会研究コース 登利谷正人ゼミ

登利谷ゼミではパキスタンやアフガニスタンを始めとした南アジアについて、歴史、政治、文化など幅広いテーマを学生自身の興味関心のもと選択し、理解を深めることができます。ゼミ生はウルドゥー語専攻の学生が多いですが、ペルシア語やヒンディー語など専攻に関わらず南アジアに関心のある学生が集まっています。授業では南アジアに関連した論文や書籍を輪読し、ゼミ生で出し合った論点をもとにディスカッションを行います。取り上げる文献はゼミ生の関心によって選ぶため、自分の研究テーマについて知見を広めることが可能です。また三年春学期の段階で卒論構想報告を行うなど早い段階から卒論テーマについて考えることができるため、長い時間をかけてじっくりと卒業研究に取り組むことができます。先生もテーマ選定や研究手法について親身になって相談に乗ってくれるため、充実したゼミとなっています。（神山登輝）

#### 地域社会研究コース 藤井豪ゼミ

藤井ゼミでは主に朝鮮近現代史を通して、フェミニズムや民主主義について学んでいます。これらについて学ぶことは、社会で不可視化されてきた人々の生と抵抗の声を聞くことでもあり、自分の思考の背景にある規範や固定観念を打ち破るきっかけにもなり得ます。今までの‘当たり前’を疑うことで、見えていなかった世界が広がり、自身のあり方にも向き合うことができると思います。日常のちょっとした違和感を見逃さず、細分化しながら一緒に考えていきましょう。また、ゼミは学生の関心に沿った様々な文献を毎週読み、議論する方式で行われます。外部からゲスト講師をお招きすることもあり、人との繋がりや対話を大切にしています。ゼミはアットホームで自由な雰囲気、先生やゼミの同期、先輩後輩関係なく話せる賑やかなゼミです！ぜひ藤井ゼミで学んでみませんか？（加賀田聡子）

#### 地域社会研究コース 宮田敏之ゼミ

ある地域にまつわる「モノ」や「コト」に関する分析をもとに現地の経済、政治や社会を紐解いていく。こうした研究手法が宮田ゼミの大きな特徴です。ですから、宮田ゼミでは、学生自身の中にある「好き」や「気になる」を研究の出発点にすることができます。多様な文化や社会が混在する東南アジア地域を扱うゼミらしく、ゼミ生一人一人の興味関心もバラエティに富んでおり、コメ、自動車、ダム、乳製品、縫製品など、その切り口は多種多様です。異なるテーマに挑戦するゼミ生が互いに学び合い、高め合える環境があります。しかも、指導教員の宮田先生は、普段のゼミの授業でも、卒業論文の指導の際も、研究の方向性のヒントとなる有意義なアドバイスを数多くくださいます。ひとつの「モノ」や「コト」を多面的な視点から捉え直した上で、自分なりに問いを立て、その答えを探るという営みを大事にしています。こうした営みを通して、地域に根ざす視点や社会を俯瞰する力を養うチャンスがあると感じています。東南アジア地域のように温かく活気ある雰囲気の宮田ゼミで、一緒に学びましょう！（田澤日緒里）

#### 地域社会研究コース 山内由里子

オセアニア地域・先住民族研究を専門とする山内先生のゼミです。3年次は、ゼミメンバー共同で文献の精読を行い、文献を読む力を鍛える時間になります。ひとりひとりに発言や質問の機会が多く、「読んでみたい文献や題材があれば」と、学生の興味関心をいつも積極的に取り入れてくれます。定期的に先生との個人面談の時間があり、卒論に向けて自分の興味関心を見つけ、調査・執筆に向けて長い目で進めていける環境です。特定の地域や分野の専門知識というより研究の基礎力をつける学び方なので、各自の研究テーマは様々です。穏やかでのんびりした雰囲気ながら、研究に対しては真摯で丁寧なゼミで、研究って難しいなと感じるときも少なくありません。けれども、自分の望む学びを、根気強く熱心の実現できる素敵な場所だと感じ、ゼミを卒業した時には必ず大きな力となるだろうと思う日々です。自由に貪欲に学びを求める人に、おすすめの場所です^^（松原咲）

#### 現代世界論コース 上原こずえゼミ

専攻言語や地域の垣根を越えて、学生一人ひとりが難民や観光、病や社会運動など関心を寄せるテーマを設定し、共に／友に学ぶのが、上原ゼミの特徴です。パソコンとばかりにらめっこするのではなく、ゼミ生や先生を誘って実際に現場に行き、学外の方からお話を聞くことで、大学外の空間でも学びを深めていきます！ゼミでは学生が主体となり、テーマに関して報告・議論をします。3年次には沖縄の人びとが置かれた戦後の歴史について輪読することで、「歴史」や「開発」といった、私たちがこれまで見聞きし身につけてきたことばを反芻します。4年次には各人のテーマを他のメンバーと話し合い、個人の課題を皆の課題として受け止め、卒業論文を磨き上げます。なによりも、和気あいあいとした雰囲気、皆で学んでいくのが最大の魅力です。あなたの関心は私の関心！ぜひ、学びを共にしませんか？（水上有紀）

#### 現代世界論コース 小野寺拓也ゼミ

「上限」については柔軟に対応する－4年最初のゼミでのこの言葉通り、ゼミ生の意欲や積極性に応じて小野寺先生は親身に指導して下さいます。図書館にない貴重な文献を惜しみなく何冊も貸して下さったり、日々の課題や卒論に関するアドバイスをたくさん下さったり…また、就活などと十分に両立できるよう、このゼミでは一足早く3年生で卒論準備の小論文を執筆します。これは他のゼミではあまり見ない取り組みだと思いますが、問いの立て方や論文の書き方などを早い段階で学ぶことで、落ち着いて卒論に取り掛かることができます。欧語文献と格闘したり先生のコメントを必死でメモして卒論の内容に頭を悩ませたりする中で、確実に力がつくはずですよ。「大学生活で思う存分学び切った！」という経験は一生の財産になると思います。ドイツ近代史についての様々な問題関心を持ったゼミ生と切磋琢磨しながら、小野寺ゼミで充実した2年間を送りませんか？（大熊葉月）

#### 現代世界論コース 田邊佳美ゼミ

国際社会学と聞いて、どんなイメージが浮かびますか？ぱっと答えにくいかもしれません。例えば紛争のニュースを見聞して、「現地の人は今、どんなふうに生きているんだろう？例えば女性は？移民は？労働者は？」と考えたことがあるのなら、本ゼミでの学びが合うのではと思います。ゼミ生はそれぞれ異なる問題関心を持っていますが、社会全体の大きな流れを掴みつつ、そこで生きる個々に目を向ける人が多いです。授業内容は文献購読とディスカッションが中心です。大きな特徴は二つ。一つ目はゼミ生の関心に合わせて文献が選ばれるところ。毎年多様な学生が集まりますが、先生がそれぞれに合ったテーマで本を用意してくれます。二つ目はディスカッションが盛んなところ。背景には安心して発言できる空気感があります。「自信がないな」と思いながら言ったことでも、先生をはじめとしたメンバーが真摯に受け止めてくれます。文献の分からなかった部分を皆で考えたり、内容に引き付けて自身の体験を共有したり、議論は多岐に渡ります。ピクニックや懇親会もあり、先生や先輩への相談もしやすい環境です。（Fさん）

#### 現代世界論コース 中山智香子ゼミ

日々変わりゆく世界の中で理不尽を感じつつもなにもできないまま過ごしているあなたへ。これまでの人生で「正しさ」や「普通」という概念に疑問を抱いたことはないだろうか。中山ゼミは、その小さな「違和感」を出発点に、自分の内にある根源的な問いに向き合い続ける場だ。それは決して簡単ではない。これまで目を背けてきたことに正面から対峙し、自分が信じてきたものが崩れ落ちる感覚に陥ることもある。でも一人ではない。同じように強い問題意識を持ったゼミの仲間たちと意見をぶつけ合い、刺激を与え合いながら成長する日々は、かけがえのないものとなるだろう。入ゼミ後は、三年次春学期の基礎文献の輪読、論考の共同執筆に加え、三年次秋学期には一人でゼミ論文を書き、四年次では卒論執筆に取り組む。語科も学年も越えて、様々な価値観を持つ人たちと時間を共有することで、世界を眼差すレンズを磨いていく。これが本ゼミの神髄である。「違和感」をそのままにしない。あなたのレンズの先には、何が見えるだろうか？（樋口優未）

#### 現代世界論コース 真島一郎ゼミ

“自分は世界のどこに立っているのか”という共通の問いのもと、様々な分野に関心を持つ学生が、それぞれのテーマについて思う存分思考を深めることが出来るゼミです。研究テーマは多様ですが、各自でただ黙々と論文執筆に取り組むというわけではありません。むしろ、ゼミ友同士で研究テーマを共有し、友のテーマも自分事として一緒に考え、自身も新たな視点にであうというのが真島ゼミの大きな特徴です。毎年真島ゼミ生は、素敵なゼミ友との出会い、皆と一緒に励まし合いながら書き上げた論文に誇りを持って卒業していきます。私たちの身近に存在する“なにごとか”。そのまえで怒り、悲しみ、混乱し、考え、考え、考える…。そんな真島ゼミでの、日々を振り返るころ、以前の自分には想像もつかなかったような地点に立っていることでしょう。（文美友）

#### 現代世界論コース 梁英聖ゼミ

「大学は、社会とは別の時間が流れている。それは、真理を探究する時間だ」――梁英聖先生がおっしゃったこの言葉は梁ゼミを表す言葉としてもぴったりだと思います。ゼミでは、レイシズムと資本主義の関係を批判的に分析する思考力を身につけるため、古典を精読して社会理論を学びます。2022年度秋学期にはフーコーの『監獄の誕生』を読み、理解できるまで徹底的に教わりました。レジュメ作成や発表を積み重ねていく日々は、決して楽ではありません。しかし、普遍性を持つ理論を学ぶことは、社会の別のありかたを構想する上で必ず役立ちますし、どんな疑問にも真剣に向き合い丁寧に答えてくださる梁先生のもとでの学びは、とても楽しく、研究室には密度の濃い時間が流れています。知識や理論を行動や実践に結びつけている梁先生の言葉は、鋭く、強く、優しいです。梁ゼミで、共に真理を探究し、「自分」という生の在り方を見つめ、創造してみませんか。（鳥倉捺央）

#### 国際関係論コース 片岡真輝ゼミ

片岡ゼミでは、記憶が集団によって形成されるメカニズムやその社会的影響を研究する記憶論を学びながら、その考えを国際関係学や社会学などといった幅広い領域の事象に応用して自分の興味や関心に合わせた研究ができるゼミです。そのため、様々な語科の学生が所属しています。授業は、事前に設定されたテーマに関するディスカッションやプレゼンテーションが中心となって行われます。リラックスした雰囲気でのゼミであり、多様な語科の学生同士の仲も良いため、それぞれの専攻地域の目線からの意見交換が活発に行われ、広い視野を育て、新たな興味関心を育むことができることが魅力です。また、卒論では自分の専攻地域や関心に沿った柔軟なテーマ設定が可能です。記憶論や歴史学、政治学、国際関係学に興味がある人はもちろんのこと、様々な人と関わりながら自分の視野を広げたい人や自分の興味関心を追求したい人にもおすすめです！（廣田希）

#### 国際関係コース 篠田英朗ゼミ

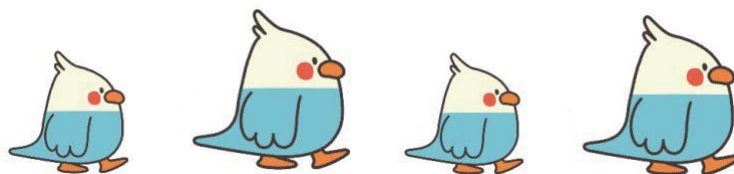
私たち篠田ゼミでは平和構築について扱っています。平和構築？堅苦しくて難しそう…なんて思ったそこの貴方！篠田ゼミは先生のユーモア溢れるお喋りと個性豊かな同期や先輩に囲まれた暖かい空間です！先生は私たち学生に親身に寄り添ってくださり、進路相談だけでなく日常の悩み相談にも乗ってくださいます。同期や先輩との繋がりも強く、ゼミ合宿や食事会、就活体験談共有会も開催されています。研究テーマは平和構築のみに限定されておらず、昨年の卒業研究のテーマもクールジャパン政策や日本の経営からウクライナ侵略やイエメン内戦まで、一人一人の興味に応じて様々でした。3年生で扱う MECE や PCM は就職活動にも役立っています。もちろん国連文書読解や紛争分析手段学習も行います。省庁や独立行政法人を志す方にもおすすめのゼミで、先生がゼミ内で貴重な裏話を共有してくださいます。就職実績も良好です。篠田ゼミ一同、後輩のみなさんをお待ちしています！（伊吹玲緒）

#### 国際関係コース 松永泰行ゼミ

「巨人の肩の上に立つ」という言葉をご存じでしょうか。ニュートンが用いたことでも有名なメタファー、先人たちの業績の上に現代の新たな知見や学問の進展が生まれることを意味しています。松永ゼミは、そうした知見に富む卒業論文を書くために巨人の肩を目指して登っていくようなところです。ゼミで扱うのは政治、社会、国際関係といったテーマで毎学期のはじめにゼミ生の関心を聞いてから先生が決定します。一昨年の秋は Historical Institutionalism（歴史的制度主義）、昨年はポピュリズムや極右政党の台頭（春）とその背景にある社会・政治的構造（秋）でした。毎週新しい文献を読むため課題量は少なくありませんが、専門的な英語にも少しずつ慣れていき、学期末には確かな成長を感じることが出来ます。また古典から最新のものまで様々な社会科学の理論との出会い、問題設定や手法からの学びもたくさんあります。先生の解説を通してその分野に関する知識を得るだけでなく、文献の中でどのような論理展開が行われているか分析する力をつけられることも魅力です。広く政治や国際的な事象に興味を持つみなさん、ぜひ松永ゼミと一緒に巨人の肩の上からの景色を望んでみませんか？（中村響）

**\*サブゼミとは？** 本学では、指導教員とは別の教員が担当するゼミを履修することも可能です。このことを、通称「サブゼミ」と呼んでいます。皆さんの先輩の実体験から、サブゼミの利用法を見てみましょう（なお、全てのゼミがサブゼミを開講しているわけではありません。サブゼミを履修する際には、必ずその担当教員と事前に相談しましょう）。

私は本ゼミとして山内由理子先生のおセアニア地域研究演習に参加しながら、サブゼミとして大石高典先生のアフリカ地域研究演習に参加しました。文献研究がメインの本ゼミとフィールドワークを重視するサブゼミに参加したことにより包括的な学びに繋がりました。サブゼミでは、国内外でフィールドワークを行ってきた学生の発表を通して、インタビューの手法や現地の人々との信頼関係の築き方などを学びました。こうしたサブゼミの環境に強く影響され、臆病で海外経験に乏しい私も国外のフィールドに足を踏み入れることができました。同時に本ゼミでの文献研究のおかげで、いざ現地に行った際に「これ、あの本で読んだぞ！」という、知識と実体験が重なる瞬間が多くあり、自らの研究対象への理解を深められました。最初は不安に思うかもしれませんが、本ゼミとは一味違う）ゼミに参加してみると、刺激的で有意義な時間になるのではないのでしょうか？（山本万智）



## Welcome Messages

### 菊池陽子 先生 地域社会研究コース



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。皆さんは入学とともに 13 に分けられた地域の一つに所属し、その地域の専攻語を学ぶことになります。第一希望の専攻語所属になった方もいれば、そうではなかった方もいるでしょうが、第一希望ではなかった方も心配しないでください。地域や専攻語との出会いは、多くの場合、偶然から生じた縁です。本学の国際社会学部という場では、皆さん自身がその縁をつなげ広げていくことができます。つなげ方、広げ方は自由なのが本学部の良いところです。地域の沼にはまりたい人も、現代世界の諸課題をとことん思考したい人も、特定の学問領域から地域の諸課題を俯瞰したい人も、まずは所属地域と専攻語からその一步を踏み出してみてください。本学では諸地域の留学生が学んでいますので、学修した専攻語でその地域の人々と話をする機会も得られるはずです。卒業する頃には偶然であった出会いが必然に変わっていたというような、地域とそこに住む人々との楽しくもありちょっぴり苦しい時もあり、けれど幸せな出会いをして下さることを期待しています。教員は皆さんの学修を全力でサポートします。

### 梁英聖 先生 現代世界論コース

ようこそ大学へ。ところで期待よりも不安が勝る方も多いのでは。入学早々就職やあるいは差別やハラスメントのことが気になって勉学に集中できない新入生がおられても全く不思議ではありません。「おめでとう」に代えて、そんな新入生が大学でサバイブする上で役立つ（かもしれない）言葉をお贈りします。①「(早期) 就活は要注意」。大学生には国家や市場の圧力に屈することなく学ぶ権利があります。就活は欧米にない日本型雇用の(悪しき)慣行に過ぎません。世間知らずの学生に「就職できない恐怖」を煽ることでカネを儲ける悪徳ビジネスに騙されないためにも、まずは大学で真剣に勉強することで企業や国家による人権侵害に対抗して生き延びる知恵を身に着けましょう。就活を可能な限り先延ばしして上手にサバイブしている先輩もいるはずなので、先輩・教員に色々聞いてみましょう。②「セクシュアル・ハラスメントやレイシャル・ハラスメントなど差別や虐待があった場合、悪いのは被害者ではなく、加害者と加害を止めない周りである」。もし虐待が横行して誰も止めないのなら、そんな共同体や組織からは逃げる権利もあります。学生相談室も気軽に利用しましょう。③「책은 말없는 스승이다」(書は物言わぬ師なり)。もし大学や教員に「失望」したなら、図書館に逃げて、スマホとネットを切って、好きな読書に没頭すること。探せば心から面白いと思える本(=師)に出会えます。ところで本を深く正確に読むには訓練が必要ですが、そのお手本を示せる者も大学のどこかにはいるはず。本であろうと人間であろうと、良き師や仲間に出会えますよう。

### 片岡真輝 先生 国際関係コース



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。期待に胸を膨らませた大学生活がいよいよ始まります。しかし、どのような大学生活を送ったら良いか、まだ漠然としている人もいるかもしれません。そこで私のことを少しお話しします。大学の先生には若いころから勉強と研究にどっぷり浸かってきた人が多そうですが、私はそのような生活とは無縁でした。本格的に勉強しようと思ったのは社会人になってから。いくつか仕事を変えながら勉強を続け、教育と研究を仕事にし始めたのは 40 歳を過ぎてからです。遠回りしているように見えますか？しかし、大学教員とはまったく関係のないことをやっていたサラリーマン時代の経験が、今とても役に立っています。遠回りに見えても、そこで得た知識や経験は血肉となり、将来の役に立つのです。ちょっと自分には合わないかも。そう思うこともあるでしょう。でも反社会的なことでもないなら、とりあえずやってみてはどうですか？その経験が将来のあなたをきっと助けます。大学時代は何事にも挑戦しやすい時期です。結果もまだ気にしなくて大丈夫。色々試して豊かな経験値を稼ぎ将来の糧にする、是非そのような実りの多い大学生活を送ってください。キャンパスで皆さんと会う日を楽しみしています。

## 5. 学部賞受賞者紹介

国際社会学部では、指導教員から推薦があったすぐれた卒業論文に対して国際社会学部賞が授与されます。2024 年度の受賞者と論文タイトルを紹介します。本学の学生は、受賞論文および紹介動画（本人の承諾があったもののみ）を Moodle 上で閲覧できます。また、過去の先輩たちの卒業論文タイトルは学部ホームページで見ることができます。

### ■地域社会研究コース

萩野穂高（青山弘之ゼミ）カタルのソフトパワーハ政策におけるオーディエンス——メディア政策と開発援助政策からの検討

國分駿祐（舩方周一郎ゼミ）ポストコロナ社会におけるカフェ店の「セカンドプレイス」化

芝田幸恵（川本智史ゼミ）GIS を用いたイスタンブールの交通渋滞分析と公共交通発展の必要性

木下紘呂（久米順子ゼミ）廃墟の文化遺産化に対する批判的検討——猿島砲台跡におけるアニメ聖地巡礼と「不在の現前」に着目して

安食日菜子（足立享祐ゼミ）To Report or Not to Report : The Dark Figure of Crime in India

渡邊琉可（木村暁ゼミ）イスハークハーン・イブラト『フェルガナ史』解題・訳注

高橋昌暉（坂井真紀子ゼミ）自己沈黙化によるサバルタンの抵抗の諸相——センベヌ・ウスマン『La Noire de...』のポストコロニアルな説話的・美学的形式

甲斐慎一郎（登利谷正人ゼミ）ダウ船貿易の近現代——イラン南岸における海運網の再編と伝統的海運をめぐる政策の変遷

浅利花音（巽由樹子ゼミ）ウクライナ侵攻後のロシア海賊版映画市場の変化——非公式映画上映の拡大に焦点を当てて

別所佑那（藤井豪ゼミ）阪神間における日本の公立学校と朝鮮学校の友好のための草の根運動

### ■現代世界論コース

青木芽衣（真島一郎ゼミ）周縁から周縁へ——ジンバブウェ女子受刑者のライフストーリー分析

水上有紀（上原こずえゼミ）イタイイタイ病——痛みから生まれた住民の闘い

工藤隆太郎（中山智香子ゼミ）加害者を生む構造——グアテマラ内戦を事例に

### ■国際関係コース

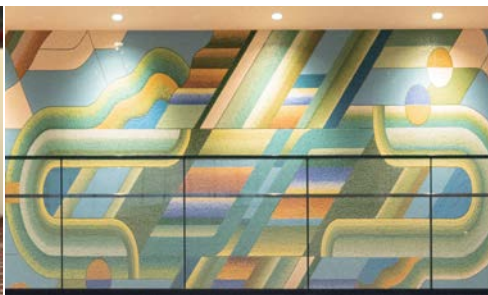
小野田成美（片岡真輝ゼミ）「犠牲者」に代わる新たな道徳的権威を用いたナショナリズム——杉原千畝の記憶を例に

加登天佑（田島陽一ゼミ）企業特殊的人的資本投資およびパートタイム従業員比率の企業の生産性への影響

関香穂（内山直子ゼミ）貧困層にとって最適なマイクロファイナンスとマイクロファイナンス機関の持続可能性のトレードオフ

檜山彩名（篠田英朗ゼミ）リビア内戦におけるエジプトの政策変化——ハフタルへの支援削減の要因

半田愛（中山裕美ゼミ）トランプ政権期における対キューバ二次制裁——対外的な意義とその歴史的特徴の考察



## 6. 卒業後の進路

2023 年度 国際社会学部卒業生の主な就職先

|                           |
|---------------------------|
| 公務                        |
| 外務省                       |
| 国立国会図書館                   |
| 出入国在留管理庁／東京出入国在留管理局       |
| 防衛省(自衛隊等含む)               |
| 製造業                       |
| (株)東芝                     |
| (株)リコー                    |
| (株)小松製作所                  |
| 沖電気工業(株)                  |
| 三菱自動車工業(株)                |
| 住友化学(株)                   |
| 富士フイルム(株)                 |
| 学術研究、専門・技術サービス業           |
| アビームコンサルティング(株)           |
| (株)電通                     |
| EY ストラテジー・アンド・コンサルティング(株) |
| Pwc コンサルティング合同会社          |
| アンダーソン・毛利・友常法律事務所         |
| デロイトトーマツアクト(株)            |
| デロイトトーマツコンサルティング(同)       |
| 情報通信業                     |
| 日本タタ・コンサルタンシー・サービスズ(株)    |
| (株)日立システムズ                |
| (株)毎日新聞社                  |
| DXC テクノロジー・ジャパン(株)        |
| アマゾンジャパン(同)               |
| 楽天グループ(株)                 |
| 日本放送協会(NHK)               |
| 金融業、保険業                   |
| (株)国際協力銀行                 |

|                    |
|--------------------|
| 卸売業、小売業            |
| 双日(株)              |
| (株)ファーストリテイリング     |
| 丸紅(株)              |
| 三井物産(株)            |
| 運輸業、郵便業            |
| (株)商船三井            |
| サービス業              |
| (独)日本貿易振興機構(JETRO) |
| パーソルキャリア(株)        |
| 教育、学習支援業           |
| 建設業                |
| 鉱業、採石業、砂利採取業       |
| (株)INPEX           |
| 電気・ガス・熱供給・水道業      |
| 不動産業、物品賃貸業         |
| トーセイ(株)            |
| 漁業                 |
| 複合サービス事業           |

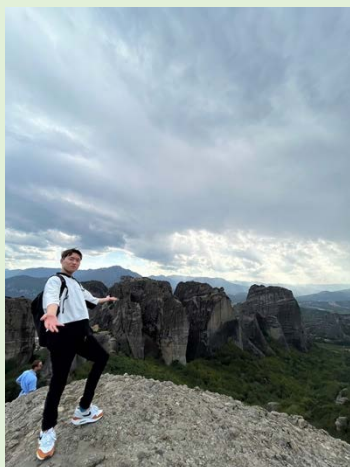
2023 年度卒業生の主な進学先

|            |
|------------|
| 東京外国語大学大学院 |
| 一橋大学大学院    |
| 東京大学大学院    |
| 京都大学大学院    |
| 早稲田大学大学院   |
| 筑波大学大学院    |
| 慶應義塾大学大学院  |
| 北海道大学大学院   |
| 東京芸術大学大学院  |
| 東京都立大学大学院  |
| 名古屋大学大学院   |
| 神戸大学大学院    |

## Welcome Messages ～私の進路～

### 浅井龍之介さん 中央ヨーロッパ地域／ポーランド語 現代世界論コース（24 年度卒）

#### 就職先 株式会社バンダイナムコエンターテインメント



ギリシャのメテオラに旅行した時の写真

皆さん東京外国語大学へのご入学おめでとうございます！！私は今年この大学を卒業し、4 月より株式会社バンダイナムコエンターテインメントという会社で勤務します。夏インターン募集開始に照準を合わせ、3 年生の始まりと同時に希望業界の分析とそれに合わせた自己分析を開始しました。自分の中で大学入学前から好きな事を仕事にしながら、世界中の人々をその好きで繋げられる存在になりたいと考えていました。そのような中、複合的に多種多様なエンターテインメントを世界中に提供しているこの会社で働くことはその夢の実現の手助けになってくれると思い入社を決意しました。自分の4 年間を振り返り、入学される皆さんにも大学生活で是非たくさんの新しい人や物事に触れ、好きなことや興味のあることに全力で取り組んで欲しいと願っています。そうする事でより自己理解が深まると共に、就職活動の際にも自信を持って自分を魅せることができるようになると思います。とにかく躊躇わずに大学生活を思いっきり楽しんでください！！

### 森一乃さん 中央ヨーロッパ地域／ポーランド語 現代世界論コース（24 年度卒）

#### 就職先 アクセンチュア

ご入学おめでとうございます、国際社会学部へようこそ。この春からコンサルタントとして働く私ですが、正直、大学での学びを直接活かした就職ではありません。外大生あるあるだと思うのですが、そもそも大学で学んだことを聞かれても、1 つに絞れず困ってしまうのです。入学後はポーランド語に苦戦しながらも夢だった留学を果たし、と思いきや帰国後は語学そっこのけで教育社会学に一直線で、それと併行して気になる他分野の授業も齧るように多く履修しました。この大学での自由な学び、そこから得た無数の経験が滲み出て、重なるようにして今の進路につながったのだらうと、振り返って思います。入学直後の私が見たら、予想外すぎて驚くかもしれません。勉強でも人でも、自分を大きく成長させる多様な出会いをもたらしてくれる場が大学です。皆さんがその小さな出会いを逃さず、大学の先の未来へと強く跳べる力をつけられるよう、ささやかながら願っています。

### 水上有紀さん 中央ヨーロッパ地域／ドイツ語 現代世界論コース（24 年度卒）

#### 進学先 東京外国語大学大学院

国際社会学部へのご入学おめでとうございます！私は大学院に進学し、日本の 4 大公害病の 1 つであるイタイイタイ病の住民運動史を書きたいと考えています。とはいえ、入学当初からこの研究をしたいと思っていたのではなく、入学後は専攻地域の研究や日本語教育に心移りしていました。その後、スイスのチュー



チューリヒ大学留学中に訪れたルンゲルン湖にて

リヒ大学に派遣留学をしたことで、自分が生まれ育った地域の人びとの経験から社会を見つめ直したいと考えるようになりました。そもそも公害病とは何なのか、公害は何を破壊したのか、人びとは公害被害を受け、何を社会に問うていったか。人びとの公害の経験を一時の単なる葛藤や苦悶として集約せず、現代を生きる私たちに対する声として聞き出すことこそ、いまの自分の課題だと受け止め、大学院に進学することにしました。4 年間（留学を含めると 5 年間）の大学での学びはあっという間です。皆さんの国際社会学部での学びが実り多き時間になるように願っています！

## 7. 学びのサポート案内

留学してみたいけど、どうしたらいいだろう……。就職のことも考えておいたほうがいいかな……。もっと英語を磨きたいな……。あるいは、ちょっと困ったな……。誰かに相談したいな……。そんな時に、大学には学生生活をサポートするさまざまな窓口があります。

いつでも、遠慮なく相談してください。

- A. TUFS アカデミック・サポート・センター（たふさぽ ☞ 日々の勉強に悩んだらまずココ）
- B. 保健管理センター（本部管理棟隣 ☞ 不調を感じた時、ケガをした時に）
- C. 学生相談室 ☞ ところの悩みがある時に
- D. グローバル・キャリア・センター（研究講義棟2階 ☞ 就活を全面バックアップ）
- E. 学習相談デスク（図書館4F ☞ 大学院生から、学習上のアドバイスがもらえます）
- F. 留学支援共同利用センター（留学生日本語教育センター棟1階 ☞ 留学（ショートビジット、協定校、私費…）に関する情報収集、相談はこちら）
- G. 英語学習支援センター（ELC）（研究講義棟3階304室 ☞ 英語学習をサポート）
- H. 学生課、教務課（本部管理棟1F ☞ 学生生活や履修・成績関連一般はこちら）
- I. 個別の教員 ☞ 専攻言語や地域基礎など、よく会う教員に話してみようかな、というのもあり

困ったときは  
「相談窓口ガイド」  
もよく読んでね



## ～みなさんの大学時代の学びを支える場となることを願って～

ご入学おめでとうございます。大学生活が始まると、「いろいろ勉強してみたい！でも何から始めたらいいのだろう？」「レポートを書くって、どうすればいいの？」「授業になんとかついていけない」「入学前に思い描いていた大学生活と全然違う…」など、戸惑い、不安、悩みをもつこともでてくるかと思います。そんなとき、ぜひ、たふさぼを利用して下さい。

### 1. 教員・大学院生からなるスタッフがみなさんの学修をサポートします

TUFS Academic Support Center (たふさぼ) では、履修やゼミ選択、レポート作成、卒論、転ゼミ、転学部、転学（他大学再受験）、大学院進学などに関する相談を受けています。どうやって自分の興味関心を広げたらよいのか悩んだとき、たふさぼを活用して下さい。ディプロマ・サブリメントに関する各種届け出も、たふさぼが窓口になります。

#### 1-1. TUFS Record(たふれこ)

学内外の多様な学修活動を記録するシステム「TUFS Record」(たふれこ) は、自分自身を振り返って客観的に見つめ直すことがしやすくなり、課題が明確になるツールです。「TUFS Record」に登録された情報は、卒業時にみなさんにお渡しする「ディプロマ・サブリメント」(公的な証書) の重要な情報源となります。

たふれこって何だろうと関心を持ってくださった方は、ぜひ、「TUFS Moodle 2」にアクセスして下さい(※MOEではありません)。マイコースから、「TUFS Record (〇〇年度入学者)」のコースに入っていると、たふれこが始まります。使い方動画もアップしていますので、ぜひ視聴下さい。

自分で登録・編集できない情報は、登録申請フォーム(Google フォーム)から届け出て下さい。毎年、みなさんが自主的に受験した言語力の外部試験結果(英語と英語以外の言語)について、多数の届け出があります。

外部試験結果申請例：TOEIC、IELTS、TOEFL、ドイツ語(ゲーテ・ドイツ語検定試験)やフランス語(実用フランス語技能検定試験)、イタリア語(実用イタリア語検定試験)、スペイン語(スペイン語認定証)、中国語(HSK) など。

#### 1-2. ミニ相談・学修相談

たふさぼ窓口では、履修の組み方やレポートの書き方、課題や試験のスケジュール管理などに関する相談を「ミニ相談」として、教員や大学院生などからなるスタッフが対応します。事前予約不要です。お気軽にお越し下さい。

ゼミ選択、転学部、転ゼミ、転学、卒論の書き方、大学院進学など、時間をかけて相談したいことがある場合には、「学修相談」を予約して下さい。学修相談員である金井先生・丹羽先生とじっくり、オンライン(zoom)でお話できます。



最新の予約方法などは、たふさぽ HP をご確認ください。

2024 年度国社の学生さんからの相談例：履修の計画、ゼミ選択、転ゼミ、留学と進路、卒論の進め方、休学期間の過ごし方、復学に向けて、進級・卒業要件の確認、転学部、転学／編入、大学院進学（海外含む）、奨学金申請書類の添削など。

### 1-3. たふさぽ・おしゃべり会（オンライン／対面開催）

学生のみなさん同士がつながり・気軽に話せる機会を作り出たく、たふさぽ・おしゃべり会を開催しています。

毎回 10 名程度の方が参加をしてくれ、その時々々のトピックについて、たふさぽスタッフを交えておしゃべりをしています。

学部やゼミ、学年をこえたゆるやかなつながりの中で、アイデアやひらめき、共感がうまれています。

2025 年度も春学期より、おしゃべり会を企画しています。よかったらぜひご参加下さい。企画のアイデアも絶賛募集中です！

2024 年度開催おしゃべり会一覧



## 2. たふさぽスタッフからみなさんへのメッセージ

こんにちは。学修相談員の金井光太郎です。大学生活を楽しく送っていますか。高校までと違って自分で選び、決めることも多くて悩むこともあるでしょう。自分で頑張るのはもちろんなのですが、それは人の支えを拒絶することではありません。弱くなっているとき背中を押してもらいたいときもあるでしょう。そういう支えを求め頼るのも自分の選択です。遠慮することはありません。はなしを聞き、また聞いてもらって、動いていけばよいのです。そんなにシリアスなことでもなくて、話してみてくださいませんか。雑談もありです。思ったことを聞いてもらおう。そういう考えもあるかと安心することもあるでしょう。たふさぽを利用してうまくがんばって下さい。

こんにちは。学修相談員の丹羽京子です。2023 年の 3 月まで、言語文化学部、ベンガル語専攻で教員を務めていました。専門は文学です。わたしは、大学生活は良い意味での「モラトリアム」期間であると考えています。モラトリアムというと、ネガティブな意味で使われることが多いのですが、本来は「猶予期間」を指します。つまり、これは完全な「大人」になるための最後の猶予期間であり、これから自分が何をしたいのか、どう生きたいのか、自分とはなんなのかをゆっくり考えることができる貴重な時期であるということです。もちろんそのためにはただ坐って考えていてもしかたありません。授業やゼミでの学びもあるでしょうし、サークルやボランティアなど様々な活動での気づきもあるでしょう。それを大事にしてもらいたいからこそ、この貴重な時間をすり減らしてしまうことがないように、なにか問題があったらすぐに相談してもらいたいと思います。

#### たふさぼスタッフ（国際社会学部卒・博士後期課程）

新入生みなさん、ご入学おめでとうございます。新しい生活への期待や不安で胸がいっぱいかもしれません。大学生活は、勉強だけでなく、新しい挑戦や発見の中で自分自身と向き合う時間でもあります。悩んだり迷ったりすることがあれば、一人で抱え込もうとせず、周囲の助けを借りてみて下さい。たふさぼでは、履修や進路の相談はもちろん、どんな小さなこともみなさんと一緒に考えます。

#### たふさぼスタッフ（国際社会学部卒・博士前期課程）

国際社会学部では、日常のなかで感じる痛みや憤りや喜びを突き詰めて考えることができます。言葉にならなかった思いを、言葉にする術が得られるのです。ただ、その学びの過程は簡単ではありません。自分自身を丸ごと見つめ直すことが不可欠になるからです。さまざまな人や物事に流されざるをえない状況のなかで、自分で自分をコントロールできず、苦しくなることもあるかもしれません。そんなときは、頭と話を整理してからでなくても大丈夫なので、一度ふらっとたふさぼに立ち寄ってみて下さい。

#### たふさぼ・センター長

たふさぼ・センター長の布川あゆみです。ご入学おめでとうございます。

例年春学期は、1 年生から「履修の組み方がよく分からない」「ゴールデンウィーク明けから授業を欠席してしまっている」「レポートで問いが立てられない、引用の仕方もよくわからない」「課題が多すぎて、埋もれている。スケジュールが管理できない」などの相談を多く受けています。「できない自分が悪い」という声もよく聞きますが、学びに真摯に向き合おうとしているからこそ出てくる悩みだとたふさぼでは捉えています。

これまで先輩たちがあゆんださまざまな「道」を参考に、みなさんそれぞれの「道」と一緒に、じっくり考える場として、たふさぼが位置づくようにと願っています。ぜひぶらりとたふさぼに寄って下さい。ヘッドセットや PC 充電器（Type-C）、PC の一時貸し出しもしています。壊れた！ 忘れた！ といった時にも、どうぞたふさぼへ。

スタッフ一同みなさんとお会いできることを楽しみにしています。

### 3. たふさぼへのアクセス

場所：研究講義棟 1 階北側エントランス横

開室時間（祝日閉室）：月曜～金曜 10：00～15：00（8月は閉室。）

たふさぼ室内の様子



たふさぼ前ホワイトボード：タイムリーなお知らせをアナウンスしています。お見逃しなく！

お問い合わせ先

TUFS Academic Support Center（たふさぼ）

住所：〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

電話：042-330-5885

メールアドレス：[academic-support-center@tufts.ac.jp](mailto:academic-support-center@tufts.ac.jp)

たふさぼ HP: <http://www.tufts.ac.jp/institutions/facility/tufssupport/>



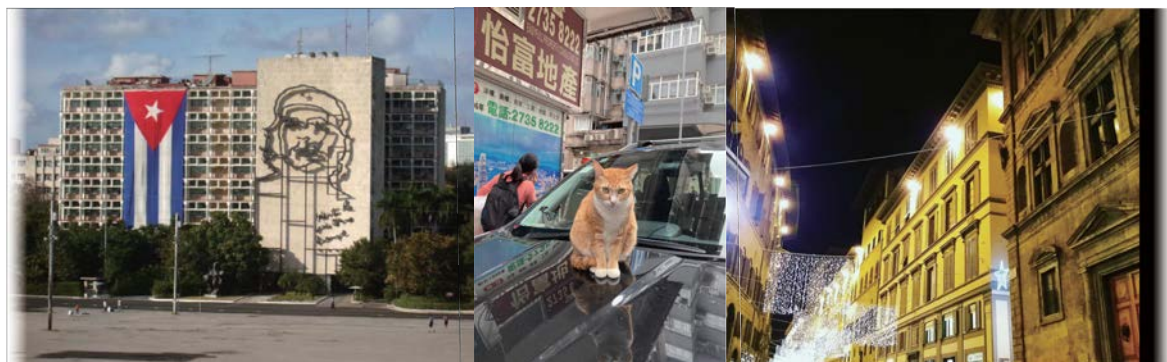
## 8. 国際社会学部 教員一覧

国際社会学部で専修プログラムの授業を担当している専任教員の一覧です（この一覧にはゼミ・卒論演習を担当していない教員も含まれています→\*で表示）。

| 地域社会研究コース |                              |      |                                                                                |
|-----------|------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 教員名       | 専門分野                         | 研究室  | e-mail                                                                         |
| 青木 雅浩     | モンゴル地域研究、中央アジア・東北アジア近現代史     | 826  | <a href="mailto:masamon@tufs.ac.jp">masamon@tufs.ac.jp</a>                     |
| 青山 弘之     | 現代中東（西アジア・北アフリカ）の政治・思想・歴史    | 837  | <a href="mailto:aljabal@tufs.ac.jp">aljabal@tufs.ac.jp</a>                     |
| 足立 享祐     | インド地域研究、歴史学（近現代史）、ヒンディー語     | 802  | <a href="mailto:adachi.kyosuke@tufs.ac.jp">adachi.kyosuke@tufs.ac.jp</a>       |
| 生駒 美樹     | 文化人類学、ミャンマー・東南アジア地域研究        | 660  | <a href="mailto:ikoma_miki@tufs.ac.jp">ikoma_miki@tufs.ac.jp</a>               |
| 伊東 剛史     | イギリス近代史、人と動物の関係史、感情史         | 626  | <a href="mailto:t.ito@tufs.ac.jp">t.ito@tufs.ac.jp</a>                         |
| 大石 高典     | 生態人類学、アフリカ研究、狩猟採集民、森林と人間     | 506A | <a href="mailto:takanori@tufs.ac.jp">takanori@tufs.ac.jp</a>                   |
| 大鳥 由香子    | 北アメリカ地域研究、アメリカ近現代史、子どもの歴史    | 659  | <a href="mailto:yukako.o@tufs.ac.jp">yukako.o@tufs.ac.jp</a>                   |
| 小田 なら     | 東南アジア地域研究、ベトナム現代史            | 514  | <a href="mailto:naraoda@tufs.ac.jp">naraoda@tufs.ac.jp</a>                     |
| 小田原 琳     | イタリア近現代史、ジェンダー史              | 760  | <a href="mailto:rodawara@tufs.ac.jp">rodawara@tufs.ac.jp</a>                   |
| 川本 智史     | 中東地域研究（トルコ）、都市史・建築史          | 806  | <a href="mailto:skawamoto@tufs.ac.jp">skawamoto@tufs.ac.jp</a>                 |
| 菊池 陽子     | 東南アジア近現代史、ラオス近現代史            | 639  | <a href="mailto:kikuchiyoko@tufs.ac.jp">kikuchiyoko@tufs.ac.jp</a>             |
| 金 悠進      | インドネシアを中心とした東南アジア地域研究        | 652  | <a href="mailto:kim.yujin@tufs.ac.jp">kim.yujin@tufs.ac.jp</a>                 |
| 木村 暁      | 中央アジア史、中央アジア地域研究             | 834  | <a href="mailto:s_kimura@tufs.ac.jp">s_kimura@tufs.ac.jp</a>                   |
| 日下 渉      | フィリピンを中心とした東南アジア地域研究         | 637  | <a href="mailto:kusaka@tufs.ac.jp">kusaka@tufs.ac.jp</a>                       |
| 久米 順子     | スペイン中世美術史、西洋美術史、文化史          | 726  | <a href="mailto:kumejun@tufs.ac.jp">kumejun@tufs.ac.jp</a>                     |
| 倉田 明子     | 中国・香港近現代史（社会史、キリスト教史）        | 853  | <a href="mailto:akurata@tufs.ac.jp">akurata@tufs.ac.jp</a>                     |
| 近田 亮平     | ラテンアメリカ・ブラジル地域研究、都市社会学       |      | HPを確認してください。                                                                   |
| 坂井 真紀子    | 農村社会学、アフリカ地域研究、村落開発          | 720  | <a href="mailto:sakai_makiko@tufs.ac.jp">sakai_makiko@tufs.ac.jp</a>           |
| 澤田 ゆかり    | 中国（含む香港）に関する社会保障と労働問題        | 852  | <a href="mailto:sawada@tufs.ac.jp">sawada@tufs.ac.jp</a>                       |
| 篠原 琢      | 中央ヨーロッパ近・現代史（18-20 世紀）       | 718  | <a href="mailto:takus@tufs.ac.jp">takus@tufs.ac.jp</a>                         |
| 鈴木 義一     | 現代ロシア地域研究、ソ連史、比較経済体制論        | 704  | <a href="mailto:ysuzuki@tufs.ac.jp">ysuzuki@tufs.ac.jp</a>                     |
| 芹生 尚子     | 近世フランス史、史学史                  | 761  | <a href="mailto:nseriu@tufs.ac.jp">nseriu@tufs.ac.jp</a>                       |
| 左右田 直規    | 東南アジア近現代史、マレーシア政治社会史         | 601  | <a href="mailto:soda@tufs.ac.jp">soda@tufs.ac.jp</a>                           |
| 巽 由樹子     | ロシア史、メディア研究                  | 703  | <a href="mailto:tatsumi@tufs.ac.jp">tatsumi@tufs.ac.jp</a>                     |
| 千葉 敏之     | ヨーロッパ中世史、キリスト教史、歴史資料体学       | 649  | <a href="mailto:t-chiba@tufs.ac.jp">t-chiba@tufs.ac.jp</a>                     |
| 友常 勉*     | 日本思想史、日本近現代史、社会運動史、日本のマイノリティ | 707  | <a href="mailto:ttmotsune@tufs.ac.jp">ttmotsune@tufs.ac.jp</a>                 |
| 登利谷 正人    | アフガニスタン・パキスタン地域研究・近現代史       | 851  | <a href="mailto:toriya@tufs.ac.jp">toriya@tufs.ac.jp</a>                       |
| 萩尾 生      | バスク地域研究、言語社会学                | 728  | <a href="mailto:shohagio@tufs.ac.jp">shohagio@tufs.ac.jp</a>                   |
| 福島 千穂     | 近世ポーランド・リトアニア史、前近代のウクライナ     | 717  | <a href="mailto:fsch@tufs.ac.jp">fsch@tufs.ac.jp</a>                           |
| 藤井 豪      | 朝鮮近現代史、韓国現代社会                | 857  | <a href="mailto:nareh0810@tufs.ac.jp">nareh0810@tufs.ac.jp</a>                 |
| ポータージョン*  | 日本近世・近代史、都市社会史、民衆史、古文書学      | 522  | <a href="mailto:jporter@tufs.ac.jp">jporter@tufs.ac.jp</a>                     |
| 宮田 敏之     | 東南アジア経済研究、タイ地域研究、タイ経済研究      | 531  | <a href="mailto:tmiyata@tufs.ac.jp">tmiyata@tufs.ac.jp</a>                     |
| 山内 由理子    | 文化人類学、先住民研究、オセアニア地域研究        | 625  | <a href="mailto:yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp">yuriko.yamanouchi@tufs.ac.jp</a> |
| ルシオ デ ソウザ | 近代ヨーロッパ - アジア関係              | 617  | <a href="mailto:sousa.lucio@tufs.ac.jp">sousa.lucio@tufs.ac.jp</a>             |

| 現代世界論コース |                           |      |                                                                                |
|----------|---------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 教員名      | 専門分野                      | 研究室  | e-mail                                                                         |
| 上原 こずえ   | 社会学、沖縄現代史、社会運動史           | 551  | <a href="mailto:uehara@tufts.ac.jp">uehara@tufts.ac.jp</a>                     |
| 大川 正彦    | 政治学（原論・政治理論）、倫理学、いのち論     | 546  | <a href="mailto:okawa@tufts.ac.jp">okawa@tufts.ac.jp</a>                       |
| 小野寺 拓也   | ドイツ現代史、ナチズム論、日常史、感情史、男性史  | 647  | <a href="mailto:tonodera@tufts.ac.jp">tonodera@tufts.ac.jp</a>                 |
| 加藤 美帆    | 教育社会学、家族社会学、ジェンダーと教育      | 528  | <a href="mailto:mihokato@tufts.ac.jp">mihokato@tufts.ac.jp</a>                 |
| 竹田 恵子    | ジェンダー／セクシュアリティ研究、社会学      | 518  | <a href="mailto:keiko_takeda@tufts.ac.jp">keiko_takeda@tufts.ac.jp</a>         |
| 田邊 佳美    | 国際社会学、フランス現代社会研究、移住研究、交差性 | 723  | <a href="mailto:yoshimi.tanabe.i@tufts.ac.jp">yoshimi.tanabe.i@tufts.ac.jp</a> |
| 東城 文柄    | バングラデシュ地域研究、地理情報科学、環境保全論  | 506C | <a href="mailto:tojo.b21@tufts.ac.jp">tojo.b21@tufts.ac.jp</a>                 |
| 中山 智香子   | 社会思想、経済思想、グローバルスタディーズ     | 504  | <a href="mailto:nakac@tufts.ac.jp">nakac@tufts.ac.jp</a>                       |
| 古川 高子*   | 近現代ヨーロッパ史、アルピニズム、自然の思想史   | 559  | <a href="mailto:furukawa@tufts.ac.jp">furukawa@tufts.ac.jp</a>                 |
| 真島 一郎    | 社会人類学、現代思想、西アフリカ民族誌       | 503  | <a href="mailto:imajima@tufts.ac.jp">imajima@tufts.ac.jp</a>                   |
| 米谷 匡史    | 日本思想史・社会思想史、アジア論、植民地研究    | 820  | <a href="mailto:yonetani@tufts.ac.jp">yonetani@tufts.ac.jp</a>                 |
| 梁 英聖     | レイシズム研究、資本主義と差別、在日朝鮮人差別   | 516  | <a href="mailto:yongsong@tufts.ac.jp">yongsong@tufts.ac.jp</a>                 |

| 国際関係コース |                           |                        |                                                                                  |
|---------|---------------------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 教員名     | 専門分野                      | 研究室                    | e-mail                                                                           |
| 内山 直子   | ラテンアメリカ地域研究、開発経済学         | 731                    | <a href="mailto:n.uchiyama@tufts.ac.jp">n.uchiyama@tufts.ac.jp</a>               |
| 岡田 昭人   | 比較国際教育学、異文化コミュニケーション      | 532                    | <a href="mailto:aokada@tufts.ac.jp">aokada@tufts.ac.jp</a>                       |
| 片岡 真輝   | 国際関係、記憶の政治学、オセアニア政治       | 631                    | <a href="mailto:masaki_kataoka@tufts.ac.jp">masaki_kataoka@tufts.ac.jp</a>       |
| 菊地 和也   | 応用経済学、ゲーム理論               | 554                    | <a href="mailto:kkikuchi@tufts.ac.jp">kkikuchi@tufts.ac.jp</a>                   |
| 佐藤千鶴子   | アフリカ地域研究、国際協力論            |                        | HP を確認してください。                                                                    |
| 篠田 英朗   | 平和構築、紛争解決、国際秩序論、国際協力、国際組織 | 505                    | <a href="mailto:hshinoda@tufts.ac.jp">hshinoda@tufts.ac.jp</a>                   |
| 鈴木 美弥子  | 民法、消費者法、環境法               | 555                    | <a href="mailto:mysuzuki@tufts.ac.jp">mysuzuki@tufts.ac.jp</a>                   |
| 武内 進一   | アフリカ研究、国際関係論、国際協力論        | 401E2;<br>AA<br>研棟 611 | <a href="mailto:shinichi_takeuchi@tufts.ac.jp">shinichi_takeuchi@tufts.ac.jp</a> |
| 田島 陽一   | 国際経済学、開発経済学、メキシコ経済論       | 556                    | <a href="mailto:tajima@tufts.ac.jp">tajima@tufts.ac.jp</a>                       |
| 谷 一巳    | 国際政治論                     | 552                    | <a href="mailto:k.tani@tufts.ac.jp">k.tani@tufts.ac.jp</a>                       |
| 出町 一恵   | 国際金融論、開発経済論               | 830C                   | <a href="mailto:k.demachi@tufts.ac.jp">k.demachi@tufts.ac.jp</a>                 |
| 松隈 潤    | 国際法、国際機構論                 | 550                    | <a href="mailto:jmatsukuma@tufts.ac.jp">jmatsukuma@tufts.ac.jp</a>               |
| 松永 泰行   | 比較政治学、政治社会学（争議政治）、国際関係論   | 524                    | <a href="mailto:matsunaga@tufts.ac.jp">matsunaga@tufts.ac.jp</a>                 |
| 吉崎 知典   | 国際政治、安全保障、国連平和維持活動（PKO）   | 501                    | <a href="mailto:tomoyoshizaki@tufts.ac.jp">tomoyoshizaki@tufts.ac.jp</a>         |
| 若松 邦弘   | 比較政治（西欧）、福祉・移民・環境など社会争点政治 | 661                    | <a href="mailto:kwakamat@tufts.ac.jp">kwakamat@tufts.ac.jp</a>                   |



## 9. よくある質問コーナー

Q1. 入学前に ICC アカウントとパスワードが配布されたそうですが、受け取っていません。どうすればよいですか？

A1. ICC アカウント取得に関するお知らせは、入学手続の際に住所等と一緒にウェブページに入力されたメールアドレス宛に送られています。もう一度確認してみてください。メールを受け取っていない/紛失した場合は、東京外国語大学総合情報コラボレーションセンター（ICC センター）に連絡してください。 E-mail: [icc-service@tufs.ac.jp](mailto:icc-service@tufs.ac.jp)

Q2. 春学期の GLIP 科目の履修や登録方法について質問があります。どこに連絡すればいいですか？

A2. GLIP デスクに問い合わせてください。

GLIP デスク（研究講義棟 412 教室）E-mail: [glip@tufs.ac.jp](mailto:glip@tufs.ac.jp) Tel: 042-330-5366

Q3. 春学期は何コマくらい履修すればいいですか？

A3. **12-15 コマ**をおススメします。必修科目、進級要件科目を中心にまず時間割を組み、そこに教養科目を足していく、というイメージが良いと思います。

Q4. 授業をどうしても欠席しないといけません。どんな手続きが必要ですか？

A4. 欠席には公欠になるものとならないものがあります。履修案内をよく読み、必要な手続きをしてください。

Q5. 履修している科目の担当の先生に連絡したいことがあります。メールアドレスが分からないのですが、どうすればいいですか？

A5. 大学ホームページの「研究者一覧」には外大所属の教員が全員載っています。ここに目指す先生がいるか、その先生のページにメールアドレスが書いてあるか、確認しましょう。

<http://www.tufs.ac.jp/research/researcher/people/index.html>

Q6. 確認しましたが、そこには先生の名前（メールアドレス）がありませんでした。どうしたらいいですか？

A6. 非常勤の先生については、個人情報の観点から情報は公開されていません。授業時間中に連絡を取ることを優先してください。緊急の場合は教務課に相談してください。また、下記の科目群については、それぞれ担当の専任教員にも相談してみてください。

- ・ 専攻言語・地域基礎の場合→専攻言語代表教員
- ・ 地域代表教員 教養外国語の場合→教養外国語担当教員
- ・ GLIP 科目の場合→ GLIP デスク

## 2025 年度 国際社会学部 学部運営体制

|      |       |
|------|-------|
| 学部長  | 千葉 敏之 |
| 副学部長 | 加藤 美帆 |

|           |      |       |
|-----------|------|-------|
| 地域社会研究コース | コース長 | 宮田 敏之 |
| 現代世界論コース  | コース長 | 大川 正彦 |
| 国際関係コース   | コース長 | 田島 陽一 |

|                  |        |
|------------------|--------|
| 学部長補佐（入試担当）      | 小野寺 拓也 |
| 学部長補佐（教務担当）      | 上原 こずえ |
| 学部長補佐（学生担当）      | 木村 暁   |
| 学部長補佐（広報・点検評価担当） | 伊東 剛史  |

### 地域代表教員

|         |                         |
|---------|-------------------------|
| 北西ヨーロッパ | 伊東 剛史                   |
| 中央ヨーロッパ | 福嶋 千穂                   |
| 西南ヨーロッパ | 田邊 佳美                   |
| イベリア    | 久米 順子                   |
| ロシア     | 鈴木 義一                   |
| 中央アジア   | 木村 暁                    |
| 東アジア    | 澤田 ゆかり                  |
| 北アメリカ   | 伊東 剛史                   |
| ラテンアメリカ | 内山 直子                   |
| アフリカ    | 春学期：坂井 真紀子<br>秋学期：大石 高典 |
| オセアニア   | 山内 由理子                  |
| 東南アジア   | 宮田 敏之                   |
| 南アジア    | 登利谷 正人                  |
| 中東      | 青山 弘之                   |

※作成にあたって Tufs Academic Support Center たふさば、  
留学生課、グローバル・キャリア・センター（GCC）のご協力をいただきました。

東京外国語大学 国際社会学部の歩き方

2025 年度入学生版

2025 年 3 月発行

東京外国語大学 国際社会学部

表紙デザイン：山田 智大（大学院総合国際学研究所 博士前期課程）※発行時